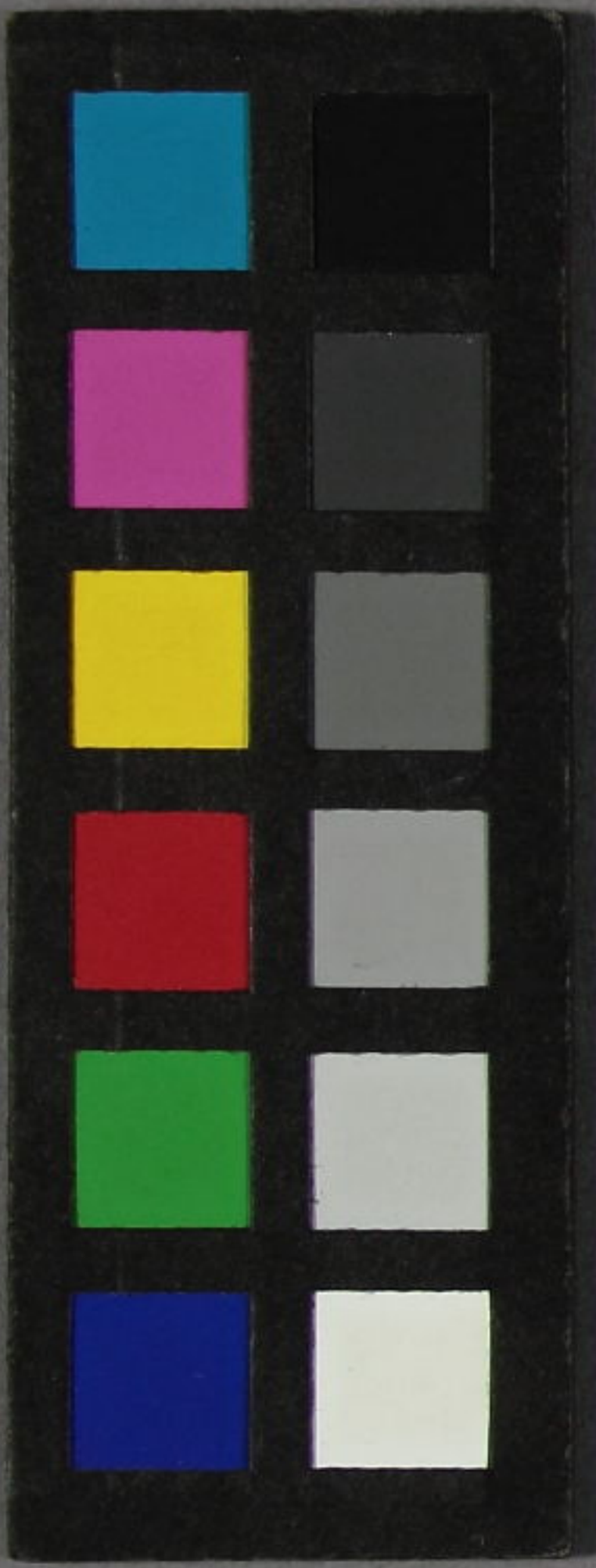


○言ノ門 瘧疾ノ原因 症候 及 治療法
○ポタリ 氏 常 関 通 症 状 及 鑑 別

第四篇
内科学総論
循環器病各論

特別
イ 4
3159
B 39 (2)



○ポタリ氏管開放

(逆通症状)

(一) 右心室肥大 (二) 肺動脈音亢進

診断困難あり

14
3159
B39(2)

◎心筒炎の原因、症候、療法

◎肺炎の症候、鑑別

胸部大動脈痛、部位的(上行部、下部、下行部) 鑑別如何 (四三二一)

循環器病目次

第一 急性心内膜炎

第二 心臟瓣膜病 三丁

第三 心囊炎 一三丁

○呼吸器病目次
鼻腔ノ疾病

喉頭ノ疾病

氣管及氣管枝ノ疾病目次

- 第一 ○氣管枝加吞兒 一七丁
- 第二 格魯布性氣管枝炎 二四丁
- 第三 氣管枝擴張 二五丁
- 第四 氣管枝狹窄 二七丁
- 第五

肺臟ノ疾患目次

- 第一 咯血 三〇丁
- 第二 肺二口虫(寄生性咯血) 三三丁
- 第三 肺氣腫(氣胞性) 三六丁
- 第四 肺膨脹不全 七六丁
- 第五 就下性肺炎 七八丁

第六	肺水腫	四〇丁
第七	加吞兒性肺炎	四二丁
第八	格魯布肺炎	四六丁
第九	肺膿瘍	五四丁
第十	肺壞疽	五三丁
第十	肺結核	五七丁
第一	肋膜炎	八二丁
第二	氣胸	九二丁
第三	胸水	九四丁

肋膜、疾病目次



(四〇一)

第四篇 循環器疾病

第一章 心臟之疾病

第一 急性心臟內膜炎

(症狀、心臟內膜炎)

膿渣性心臟內膜炎

- (一) 腸管狀其
- (二) 粟粒性肺
- (三) 向膜性
- (四) 心囊炎
- (五) 偶發性心臟雜音
- (六) 化膿性肺膿瘍

原因

- (一) 血液中、循環器、各種、遺毒、毒株、其、傳染、性、毒、心臟、內、膜、因、着、在、其、本、症、之、起、之
- (二) 又、身、體、或、部、分、(皮、膚、及、粘、膜)、之、創、傷、之、後、之、侵、入、之、本、症、之、起、之、(故、內、膜、之、一、種、創、傷、傳、染、病、ト、看、做、コ、ト、得、也)

- (三) 本、病、之、發、生、疾、患、(急、性、閉、鎖、骨、質、斯、之、產、褥、熱、) 急、性、遺、毒、病、(痘、瘡、猩、紅、熱、麻、疹、) (四) 流、行、性、感、

(1) 痲毒 (2) 敗血症 (3) 膿毒症 (4) 寒战的里 (5) 腸室扶
斯 (6) 赤痢 (7) 肺結核 (8) 纖維性肺炎 (9) 腎臟炎 (10) 骨腫
炎等あり

解剖 心臓の後、大小不同の乳管状結節あり、其状
状内後若ト云ヒ壞疽組織ノ類敗難脱ニ由リ、潰瘍ヲ
生ズル者ヲ膿潰性内腫ト稱ス

内後水性結核多ク、瓣膜殊ニ其閉鎖線ニ存スル者
ニシテ、腱索、心室及心房ノ内後ニ存スル稀ナリ病変、
瓣膜ニ及スルヲ瓣後性心臓内後トシ、室壁ニ及
スルヲ壁性心臓内後トス
急性心臓内後トシテ、強トシテ心、瓣後(帽帽)瓣
並ニ大動脈(瓣)ヲ侵シ、之ニ及シテ先天性内後有、主

トシテ右心ヲ侵スニ後内腫トヨリシテ、**結核**、**膿毒**、**栓**
塞ヲ生ズ、良性ノ疝状内後トシテ、**栓**、**塞**、**唯**、**機**
械的、**障**碍ヲ力スルニキサシトモ、**悪性**、**膿**、**潰**、**性**、**内**、**腫**
トシテ、**在**、**心**、**室**、**器**、**械**、**的**、**傷**、**ク**、**ニ**、**及**、**シ**、**テ**、**傳**、**染**、**性**、**栓**
塞トナリテ、**膿**、**瘍**、**又**、**ハ**、**出**、**血**、**ヲ**、**起**、**ス**、**コ**

症候 本症ニ全身症候ト局所症候トアリ

甲 全身之症候
一 腸室扶斯様ノ症候ヲ呈スルモノ、**即**、**チ**、**ハ**、**振**
盪、**症**、**腹**、**部**、**膨**、**滿**、**脾**、**臟**、**肥**、**大**、**下**、**痢**、**甚**、**微**
疹、**子**、**ノ**、**症**、**状**、**アリ**
乙 局所熱様ノ症候ヲ呈スルモノ、**即**、**チ**、**ハ**、**我**、**慄**、**ヲ**、**發**
熱、**體**、**温**、**上**、**昇**、**シ**、**發**、**汗**、**ニ**、**由**、**リ**、**下**、**熱**、**脾**、**臟**、**肥**、**大**、**子**

其状大、向疑斑ニ類ス

(三) 諸臓器ニ化膿ヲ起スモノ即潜伏シタル心臓内膿
蓋ヨリシテ微菌ヲ生ジ、菌ハ心臓器ニ化膿ヲ
誘起スルモノニシテ化膿熱ヲ起ス

診断上必要ナル検査ノ症候ニシテ皮膚、口腔粘
膜、網膜ニ栓塞ヲ生ジ、血液ヲ起シ、血液部ハ
中央ニ鮮紅色ハ中心ヲ現ハシ、即チ特異ノ微菌
檢子ナリ

(乙) 局所症候 瓣膜性心臓内膿ヲ生スルハ内
膜ニ性雜音ヲ起シ、其雜音ハ多クハ心臓收縮時
ニ生ズ、セシト稀ニ、其間張時ニ現ル、イナリ、心臓
血液循環ヲ轉厚ハ多クハ死ナリ

△診断 原因ニ注意シ、熱型、心臓瓣膜病ノ症候
ニ由リテ診断ス

其鑑別ヲ要スル症候ハ、(一) 腸管攣則 (二) 間歇
性 (三) 丙種粒核ナリ

△豫後 不良

△療法 微菌ヲ撲滅シ、心臓ヲ消毒セシメ、栓塞
ヲ防ギ、且チ体力ヲ保持スルヲ要ス

微菌ノ撲滅ニ炎性消毒ト目的ニサリ、チン酸、
塩酸キ、トナラ用フ

心臓ニ氷嚢ヲ貼シ、心臓ヲ安靜ナクシ、心臓塞豫防
食品ニ拘リ、体力ヲ保持スルニ注意ス、因ニ、飲
食物ヲ其ニ虚脱ノ症候現レ、心臓ノ與奮耐ラ與フ

第二 心臟瓣膜病

(慢性心臟内膜炎)

△原因

瓣膜病多數は急性内膜炎より發生す
生じテ殊ニ急性内膜炎に倣ふ所あり来り
慢性内膜炎をヨリテ慢性瓣膜病を起す場合稀
多クテ漸次瓣膜肥厚萎縮増生及石灰化
起ス

老年、身体過勞、酒毒、痛風、徴あるヨ
リテ血管ハテトム變性ヲ来シ本症ヲ起ス
生活、年齢、男女ニ辨膜病ト其發生ノ種類ト
關係アリ。本病ハ常ニ最モ多シ壯年者ハ病
狀心後内膜炎を爲シ僧帽瓣膜病ニ罹ル者多ク、四

弁膜閉鎖不全
成三

糸孔狹窄

十歳乃至六十歳者ハ動脈硬化ニ因リ大動脈弁閉鎖不全ニ罹ル者多シ女子ハ僧帽弁後病ニ罹ル者多シ

○瓣膜病ノ病理

付合ハシ心糸膜間張時ハ血液ヲ

シテ右左ニ其糸孔ヲ流通セシメ閉鎖時ハ血液ノ逆流ヲ許サズ、セド若シ内膜炎ニ罹リテ糸膜端短縮スルハ糸膜閉鎖時モ其端ニ空隙ヲ生スルニ由リ之ヲ糸膜閉鎖不全ト稱ス、

之ニ及ニテ若シ糸膜肥厚ニ由リテ糸孔狹隘トナレルハ糸膜間張ルモ血液ハ十分ニ糸孔ヲ通過スル所ナラズ之ヲ糸孔狹窄トシテ

糸孔狹窄ニハ概シ閉鎖不全ヲ伴フモノ閉鎖不全

ノ一 瓣膜病

三、弁孔狭窄、付、ハセ、ナリ

弁膜病、心臓循環ニ及、ホ、影響、ハ、或、部位、ニ、於、テ、心動脈、緊張、ヲ、増、シ、他、部、位、ニ、於、テ、心動脈、緊張、ヲ、減、ス、ニ、シ、テ、其、結果、ハ、血、ハ、循環、シ、得、テ、不、下、勿、論、ナリ、斯、ノ、如、ク、弁膜病、ハ、血、行、障、碍、ヲ、起、ス、キ、ハ、心、中、ニ、血、行、障、碍、ヲ、現、ハ、セ、ル、者、アル、ハ、心、臓、ノ、定、数、分、ハ、働、心、増、加、即、代、償、ヲ、起、ス、メ、ニ、テ、此、代、償、ノ、存、ス、ル、向、ハ、弁膜病、ハ、心、筋、ト、心、規、ニ、近、キ、血、行、ヲ、為、シ、得、ル、モ、ト、ス、

弁膜病、増、加、シ、血、行、障、碍、ヲ、代、償、ス、ル、ニ、シ、テ、一定、数、分、ノ、働、作、増、加、ス、ル、ハ、筋、肉、肥、大、ス、ル、如、ク、ニ、シ、テ、心、筋、ハ、久、シ、ク、血、行、障、碍、ヲ、防、止、ス、ト、モ、遂、ニ、

疲、方、状、態、心、臓、官、能、不、全、ヲ、表、ス、ル、也

症候

(一) 僧帽弁閉鎖不全

理、学、的、症、候、(一) 視、診、心、部、隆、起、シ、廣、ク、搏、動、ス、心、尖、搏、動、ハ、内、ト、シ、テ、少、ク、左、下、方、ニ、轉、位、ス、ル、ナリ

(二) 觸、診、心、尖、部、ニ、收、縮、的、猫、喘、ヲ、触、知、ス、又、往、テ、左、心、二、肋、間、ニ、震、盪、ヲ、触、ル、ナリ、而、テ、横、骨、動、的、搏、動、ニ、異、シ、ク、ナリ

(三) 打、診、心、濁、音、部、ノ、横、徑、増、加、シ、右、室、ノ、横、長、及、肥、大、

ノ、為、ニ、右、側、ハ、胸、骨、ノ、右、緣、ヲ、超、シ、左、室、ノ、横、長、及、肥、大、ノ、為、ニ、左、下、方、ニ、増、大、ス、ル、ナリ、而、テ、心、濁、音、部、ハ、第、四、四、角、形、ヲ、呈、ス、

鑑別疾患

(一) 脚氣

(二) 萎黄病

(三) 肺氣腫

心、部、隆、起、搏、動、廣、シ、心、尖、搏、動、左、下、方、轉、位、心、尖、部、收、縮、的、猫、喘、觸、知、左、心、二、肋、間、震、盪、觸、知

心、濁、音、部、ノ、横、徑、増、加

第、四、四、角、形、心、濁、音、部

心尖部及肺動脈孔
ニ於テ収縮的雜音ヲ
聴ク

肺動脈ノ音應盛

心部膨隆
心部右方ニ瀰蔓性搏動
尤亦ニ肋間ニ搏動性震
動ヲ見ル
心尖部張期的猫喘
ヲ觸知

四聽診 心尖部ニ於テ收縮期的雜音ヲ聞ク。此々
右亦ニ肋間部ニ胸骨ニ接スル部ニ即チ肺動脈孔
ニ於テモ亦收縮期的雜音ヲ聴ク。ア、(ナウニセキニ
依リ是ハ心耳ノ脈動脈根部ヲ圍擁スル以テ左上
心房ニ起ルル盤渦狀運動ノ為ニ生ズル雜音ヲ前胸
壁ニ傳ルルナリトス) 肺動脈系ニ音應盛トス(是
右亦肥大シ肺動脈系ノ血腔元進ズルニ由リ)

二 僧帽弁孔狭窄 (左靜脈孔狭窄)
理學的症候 (一) 視診 心臟部隆起ス。心臟部殊ニ
其右方ニ瀰蔓性搏動アリ。尤亦ニ肋間ニ於テ搏動性
震動ヲ見ル

(二) 觸診 心尖部ニ於テ張期的猫喘ヲ觸知ス。
横骨動脈脈搏ハ微細ニシテ屬シ不整ナリ

(三) 打診 心濁音 右方ニ廣カリ濁音全クハ第四
四角形ニシテ

(四) 聽診 心尖部ニ張期的雜音ヲ聴ク。此雜音
開張期ノ終ニ於テ之ヲ收縮期前雜音トス
肺動脈系ニ音應盛トス

(三) 大動脈瓣閉鎖不全

理學的症候 (一) 視診 在心尖部擴張及肥大ハ心
部著シク膨隆シ其部ニ瀰蔓性震動ヲ現ス。
心尖搏動遠シ左下方ニ轉位シ右側ハ左腋窩線ニ達
シ下方ハ亦ハ肋間ニシテア、心尖搏動亦モ又在心尖部肥
大ニ由リテ強盛トナリ

(三九二)

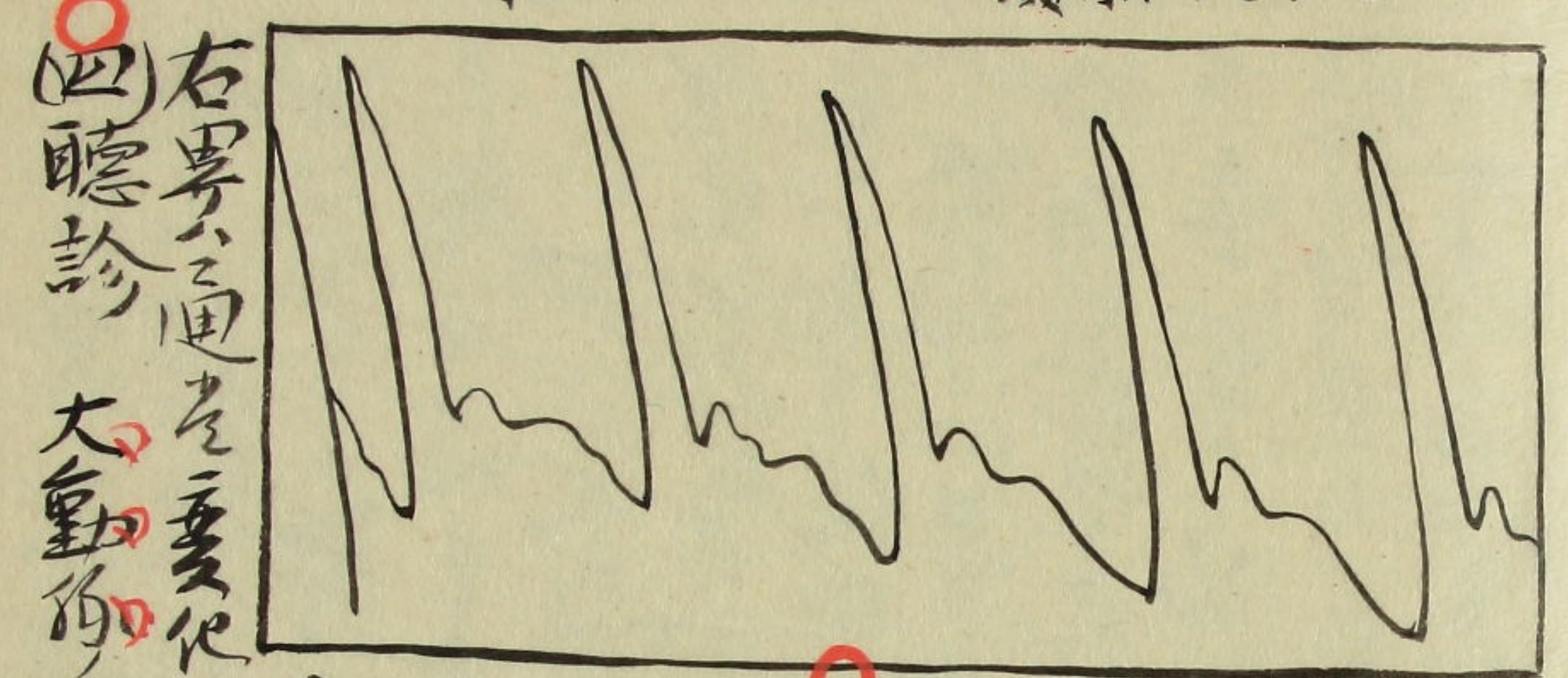
心部著シク膨隆
瀰蔓性震動ヲ見ル
心尖搏動左下方轉位
且強盛トス

諸動脈搏動盛
(頭動脈、頸動脈、
足動脈、指動脈、
毛細管、網膜動脈)
肝、腎、脾、手、搏動

心搏動強盛
心基部尚張期
的猶喘
搏動脈搏高、
速、硬

心濁音部尤方
擴大

線波脈レケ於=全不鎖閉來脈動大



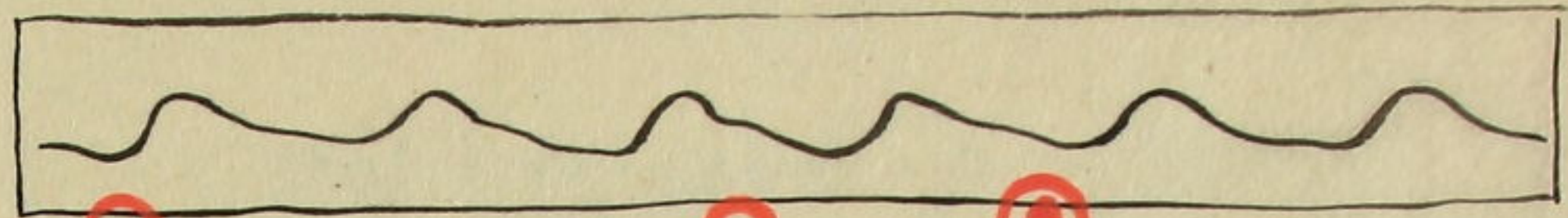
頰動脈搏動弱分佳の收縮は於テ上ノ爪
テ動搖スル状アリクニ下リ、顯露動脈足趾動
脈、指動脈等ノ如キ平素搏動ヲ認メサレテ中動脈
ニ於テモ搏動アリ見ル又シテ下リテ、所謂毛細管
動カニテ、即チ爪林爲ニ輕キ定通ラ加テ、其赤白
兩部境界ニ於テ之ヲ見ル又眼底搏動ヲ行フニ
網膜動脈ノ搏動ヲ見ル其他肝、脾、腎
諸部ニモ搏動ヲ認メテ、
(一) 觸診 心尖搏動強盛ニシテ其部ニ於テ又ハ聽診
高ク、搏動ハ心尖搏動ニ長シテ、搏動ニ從テ心基部
部ニ尚張期の猶喘ヲ觸知ス
搏動脈脈搏ハ極テ特ニ、脈搏量ニ
高ク、疾速ニシテ且硬シ之ヲ脈波計
ニテ描キ、則チ脈波上行脚ニ
シテ、下リ、銳角ヲ以テ下行脚ニ移行
シ下行脚モ亦峻ニシテ其反擊ニ隆
起僅微ス(上回ノ如シ)
(二) 打診 左室ノ擴張肥大ニ由リ
テ心濁音尤方ニ廣がり左乳線
ヲ超シ其ニキ、右乳線ニ達ス
上部ハ屢々、予ニ肋骨ニ始メ、下
部ハ予ハ舌シキ、予ニ肋骨ニ達ス

右界ハ通シク、或ハ右方ニ搏大ス
(四) 聽診 大動脈聽診部即チ右ノ二肋骨間ヲ、モ

大動脈、胸張期的
雜音、聽
頸動脈、收縮期的雜
音、短音和雜音、

小動脈、動
脈音、聽取

大動脈、狹窄、於、脈、波、線



胸骨、中央、胸骨緣、偏、胸張期的雜音、
聽、頸動脈、於、胸、收縮
期的雜音、聽、末梢動脈、聽、於、健、於
之、聽、於、小動脈、於、動脈音、聽、於、

(四) 大動脈狹窄

① 視診、心、膨脹、心、搏
動、下、外、偏、若、微、弱、

② 觸診、心、基部、部、右、側、於、收
縮期的、觸、知、脈、搏、後、徐、細、小、也、
左、室、脈、大、也、為、硬、之、指、頭、以、之、出、迫、之、指、

脈、波、亦、有、之、達、徐、之、後、上、之、後、下、之、

③ 打診、濁音、部、左、下、方、而、之、增、大、

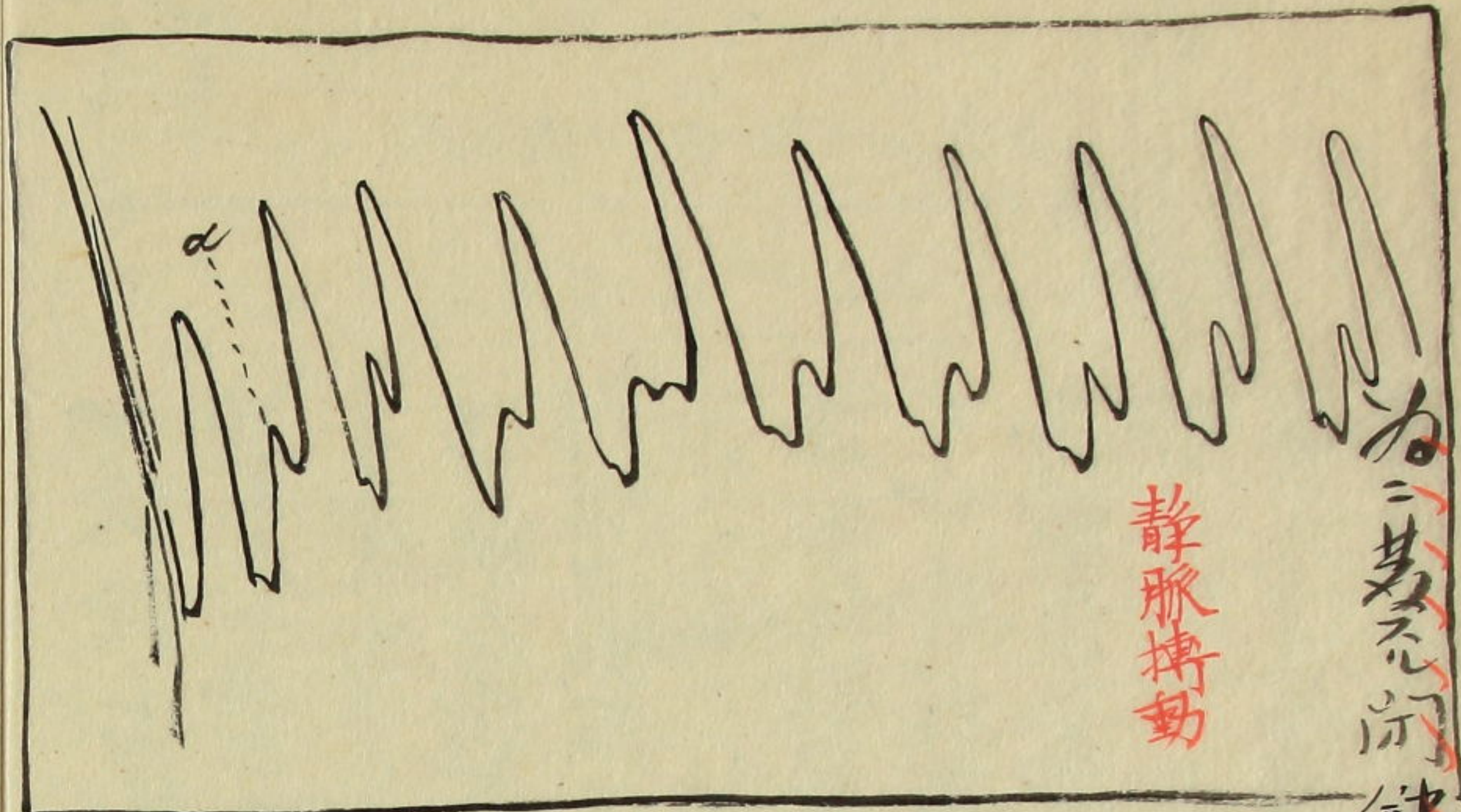
鑑別疾患
(一) 胸氣

④ 聽診、右、側、於、二、肋、間、於、收、縮、期、的、雜、音、聽
之、大、動、脈、於、二、三、之、之、微、弱、之、後、之、全、缺、如、
本、病、於、大、動、脈、之、流、入、血、後、之、量、減、少、之、
以、順、多、血、之、候、即、之、眩、暈、卒、倒、於、胸、搏、其
心、之、起、之、

(五) 三尖瓣閉鎖不全

本、病、之、獨、之、疾、率、之、胸、之、之、胸、之、之、胸、之、
左、心、之、之、併、發、之、時、之、三、尖、瓣、之、性、心
之、內、之、之、由、之、之、或、之、所、謂、胸、之、三、尖、瓣、閉
鎖、不、全、之、之、胸、之、之、三、尖、瓣、閉、鎖、不、全、
之、右、心、之、之、增加、之、之、收、縮、時、之、於、之、他、之、
之、三、尖、瓣、之、邊、緣、相、離、之、之、互、之、相、接、之、也、

胸、之、三、尖、瓣、閉、鎖、
不、全



静脈搏動

為二其元前錄不全之云

搏之脈發内ノモル器之全不録宗去三

① 理学的な候
 ② 視診必也
 ③ 陽性脈搏動より上之脈搏
 ④ 脈弁尚閉結者同に通老
 ⑤ 唯此脈搏球部搏動が見
 ⑥ 以上之脈搏弁閉結不全
 ⑦ 起るとキ、全脈搏動は於て終
 ⑧ 脈搏動は現之に右上方收縮
 ⑨ 既之明ニ僅微膨隆シ終脈
 ⑩ 現之中心收縮時ニ是ニ大
 ⑪ 搏動ノ先驅ヲ為スモノ(上同
 如之)

① 錫珍 胸骨下部に於て收縮期の猶喘ヲ觸覺

搏動弱ヲ搏動細且緩シ

② 打診 湯舌部右方ニ增大ス

③ 聴診 胸骨右縁ニ於て心ノ二ノ以テ右肋軟骨

部ニ收縮期の雜音ヲ聴ク。脈動脈ノ二音ニ微弱

トナリ或減衰ス

頸部脈及股部脈ヲ聴診スニ終脈弁閉結ス

④ 内心收縮期の音ヲ聞ク之ヲ終脈弁膜音トナフ

此音ニ重複スルアリ

(六) 肺動脈孔狭窄

① 肺動脈ノ人モ之ニテニテ實地上價値ナキニ先
 ② 世ノ人モ之ニテ心臓病ノ比較的屬スルモノ

尤ラ以テ注意ヲ要ス本病心臓ニ於テ是方ニ
此ニ係ス

○**生理的永候** ○**視診** 心臓部隆起ニ胸骨
下部部ノ涌蕩性震動ヲ認ム心尖搏動ハ
出微トシ或缺如ス強ニ動者ニ視診永候ハ
小兒ノ顔面ニ唇紫ト腕(爪)ニ於テ其紫
色ニシテ是方ノ部ニ於テ寒冷ナル 従テ指趾
ノ末端ハ肥厚スルヲ

○**觸診** 左心二肋間ニ於テ收縮期ノ雜音ヲ

觸知ス

○**打診** 心濁音部有方ニ擴カシ

○**聴診** 左心二肋間ニ強キ收縮期ノ雜音ヲ

聴ク肺動脈カニ音ハ微弱トナリ或缺如マ

後ニハ若クハ長クシテ之ヲ有シ十兒ノ十五歳以
上マシ生存スルニ於テ本患者死因ハ對償機

ノ障礙ニ由リ或ハ令保命線ニ肺交換ニ由

○**心脈弁膜病** 經過及豫後 經過ハ多シハ

甚ク慢性ナリ而シテ代償機十分ニ向ハ病者ハ
殆ト健康者ト異ナリトシテ代償機長程ハ本

病ノ輕重ニ生活ノ状態及抵抗力ノ強弱ニ由リ
併發弁膜病ハ大動脈弁膜病ノ之豫後ハ不

良ニシテ難死ノ病者トシテ弁膜病ノ不全ヨリモ豫
後不良ナリ

弁膜病患者ノ死亡原因ハ代償機障礙ノ由リ

ナリ。是も多ク脈を腫、息、心脈を腫、
或ハ衰弱ノ為ニ脈死、心脈腫痛患者ハ往々突
然死スルアリ。

診断

病後期的雜音ハ収縮期的雜音ニ比シ
ハ珍斷容易ナリ。是前者ハ唯心腫痛ニシテ
是ニ比後者ハ多ク熱性病ニシテ是ニ比
尤モ強弱ハ脈搏ニ由リテ識ル可キモ右室ハ
強弱ハ脈動終末ニ音ハ強弱ニ由ラズ之ヲ認ルル
ニテ少シハ運動ニ由リテ雜音微弱ニシテ患者ヲ
去若クハトシ

是亦同時ニ病ニ見ル雜音ハ性質ニ注意シ

若シ同時雜音ニテ所ニ於テ聽取ルルハ其自
然性ナリヤ他振性ナリヤ区別スルヲ要ス。其區別
雜音ハ是モ呼吸ニ聽取ルルニ部々ハ弁膜ニ
リ是生スルニ由ルニ由ルニ

弁膜病ヲ修治スルニ當リテ是モ雜音ノニテ
ス他ノルルノ者状ヲモ考照スルヲ要ス

療法

一 代償ヲ保ルニ心臟病ノ療法

葉劑療法ヲ要ス。ナリニ概シテ守ルニテ即チ
身体ノ運動ハ停止スルヲ避ケ、食料ハ他ニ
易キモノヲ多ク充テ、
一 休息ニ多ク注意スルヲ要ス
一 咖啡茶煙草ヲ禁ズ、
一 成心ニテ食減スル
ヲ可ク、便通ニ注意スルニ

チキタリス

二代傳機障碍。癆瘵。代傳機障碍。あり。呼吸困難。尿量減少。及呼吸。若し先付。チキタリス。用ス。チキタリス。心動。強盛。ナラシム。脈搏。強。止。血圧。亢進。見。セ。而。多。飲。之。用。チキタリス。正。規。ト。シ。之。先。定。シ。且。緩。徐。ト。シ。ク。中。投。蓋。自。的。リ。達。シ。モ。チ。中。毒。病。起。ル。中。止。ス。尚。行。續。キ。連。用。ス。其。害。一。葉。高。ニ。至。レ。バ。致。ラ。ズ。其。他。機。障。碍。其。心。筋。力。弱。シ。テ。其。延。行。變。性。ヲ。促。ス。高。熱。心。因。由。中。毒。起。ル。其。中。毒。病。然。ル。急。不。進。悪。心。嘔。吐。下。痢。眩。暈。頭。痛。耳。鳴。眩。暈。瞳。孔。

一二

チカレン
ストロファンテス下敷

散大子ナリ。チキタリス。後劑。一日。三。回。一。回。或。粉。末。一。回。〇。〇。五。克。一。日。三。回。ト。シ。テ。用。本。劑。ハ。蓄。積。地。用。ラ。ズ。以。テ。全。日。用。量。五。〇。ニ。達。ス。ル。可。使。用。サ。中。止。ス。ル。事。チキタリス。内。服。之。難。キ。中。止。院。腸。ヲ。施。シ。タ。ル。ハ。チキタリス。浸。〇。四。三。〇。〇。ラ。一。日。二。回。直。腸。注。入。之。或。浸。劑。〇。三。一。〇。〇。ラ。一。日。一。回。一。筒。注。入。下。ニ。注。射。ス。チカレン。近。時。大。病。用。セ。ル。ストロファンテス。下敷。極。量。一。回。〇。五。一。日。一。五。ハ。チキタリス。代。用。ト。シ。テ。一。日。三。回。十。滴。充。用。フ。其他。代。用。セ。ル。キ。葉。高。ハ。硫。酸。ス。レ。テ。一。回。用。量。〇。一。

乃の〇三九一〇四回應用カフテ其極量一〇〇之
 百一〇〇サリテ心臓衰弱カフテ不安息發拘攣
 酸カフテ其後依の見積胎等之因
 三對症の療法、水腫ニ甘素分りてサリテ
 此酸テホフ口シトシム、酸強カク出酸強カク出、
 酸強ニ遠、高濃水、海草強、杜松子及重石
 酸加里子、利尿劑等因
 其汗及下存酸強、常用カフテ
 水腫ニ對テ生理學的療法ヲ行フテ即チ
 熱浴或ハ露國風、並ニ氣浴或ハ熱空氣浴、
 ヲ行フテ其汗セシム

〇第二章 心囊、疾病
 第一 心囊炎

△原因 特多クハ慢性ニシテ多クハ慢性ナリ

- (一) 特慢性心囊炎、稀有ニテ外傷及感冒(一)ニ因ル
- 心囊炎之ニ屬ス此種心囊炎ハ實際結核ニ基因スルモノ極メ多シ
- (二) 慢性心囊炎ハ急性胸膜炎併發期(多クモ多シ)
- (三) 諸種傳染病(隣接部等)ニ炎症ハ蔓延シテ(四) 其他原因等ヨリ生ル

△解剖 心囊炎ハ其廣狹由リテ(甲) 限局性トシ

瀰漫性トシ區別ス而テ本病ハ解剖的變化ハ肋膜炎ト同シ、滲出物性態ニ於テハ如ク區別ス

- 鑑別疾患
- (一) 心内腫大
- (二) 多量性雜音
- (三) 心囊性濕性肋膜炎
- (四) 肺性浸潤
- (五) 心囊水腫
- (六) 心肥大
- (七) 心擴張
- (八) 縱隔腫瘍病
- (九) 心衰弱

心は...

(一) 纖維性(乾性) (二) 粘液纖維性 (三) 膿性 (四) 腐敗性(出白色)

心嚢を、經る中、屢に癒着するあり(癒着性心嚢を)

心嚢も又變化して起る甚細又粘膠質性なり

症候

主徴、心嚢炎性、呼吸音、心嚢音部、形

状及心尖搏動、状態

心嚢炎性、呼吸音、中より生ずる認識を、恰も

肋膜を性、呼吸音、由より肋膜を、認識を、

心嚢炎性、呼吸音、是所を、病、其、部

即心嚢、其、部、於、聽、有、之、呼吸音、其、部

が如く、部分、如く、或、呼吸音、如く、而、心内雜音、比

之、如く、雜音、聽、有、之、如く、猫喘、と、之

ヲ、知、し、可、也

呼吸音、或、收縮期、及、開張期、向、より、或、

收縮期、より、モ、開張期、より、或、打撃性、に、

殊、收縮期、及、開張期、向、得、坐、と、也。聽、診

寫、す、に、生、ず、し、心嚢、の、兩、葉、互、に、接近、し、呼吸音、

著、明、と、す、呼吸音、心嚢、の、兩、面、弱、搏、を、申、す、起

定、す、ら、し、呼吸音、出、流、を、示、し、心嚢、の、兩、葉、互、に、接近、

す、に、生、ず、し、呼吸音、故、に、呼吸音、乾性、心嚢

を、其、の、濕性、心嚢、と、し、而、期、末、期、上、之、を、聽、所

に、在、り、

(三) 心嚢音部、脈、波、心、尖、部、大、心、跳、動、

心體有重者以心者其位位之存之出也
先之心統其量其部有微海之皆量之從
之四方之滿其之心渴其部三角形之其
鉅尖尤亦二肋軟骨之達之七之亦一肋軟骨之
達之上下而下而右方之右乳線之起之尤方之
膈管線之達之
(一) 心尖搏動 心胃之內之存之出之由
之擴張之之心囊心尖之起之由之出之由之
之存之由之胸壁之間之潑之由之由之由之
動之徐之之皆大之
各種心囊尖之微候 尤之如之
(一) 外心囊尖及縱隔心囊尖 (肋膜心囊尖)

外心囊尖之於心尖之周圍若久心渴音之尤零之於之
心囊外之其搖音之聽之是所謂肋膜心囊之搖音之
之存之由之胸壁之間之潑之由之由之由之
纖維性縱隔心囊尖之存之由之由之
(一) 奇脈及呼吸的向歇脈 呼吸時之脈搏細小之
深呼吸時之存之由之由之
(二) 頸動脈之呼吸的搖動 (本之頸動脈每呼吸時之
器械之屈曲之且變狀之由之由之)
(三) 心囊癒着 癒着性心囊之存之由之由之
癒着之由之由之其主之微候之由之由之
(四) 心臟部收縮時陰沒 此治沒心尖部之由之由之
向之由之胸壁之大部分之並之胸骨之下部之由之由之

階段不
 (2) 開張時 肺脈虚脹 心臟開張時 心動悸 脈弱 呼吸
 卒然萎小 呼吸收復時 胸膈充張 呼吸復
 時 治後 心動悸 肺脈虚脹 心動悸 呼吸 呼吸
 肺脈 肺流 補助 充張 呼吸 呼吸 呼吸
 充張 呼吸

診断 心動悸 脈弱 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

心動悸 脈弱 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

肋膜 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

豫后 原病 性質 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

療法 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸
 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸 呼吸

二、用口或鼻呼吸也
 心囊排出物多者大量之汚穢物下之危險に瀕
 死力或ハ汚穢物吸收還送し汚穢ハ心囊に空
 刺ヲ行フ
 腸性汚穢物已ハ人切開ス

第四篇 呼吸器疾患

第三章 氣管及氣管枝之疾病

第一 氣管枝加苔兒

原因 (一)感冒(感冒性氣管枝炎) (二)塵埃吸入
 乾中植物性粉末ノ吸入最モ有害ニテ金屬性
 動物性塵埃之吸入モ機械性ノ塵埃ハ其害僅微
 ナル也 (三)有害瓦斯ノ吸入 (四)肺病上層ニ於テハ
 特殊病毒ハ傳染(例之ハ百日咳、尖形肺炎)
 (五)特殊ノ狀態、本病發生、就中ニテ(ア)例之
 ハ痛風、瘧疾、肥肝病等ニ從ヒ本病ヲ起ス
 傳染病(七)中毒(ハ)氣管、喉頭、肺、肋膜炎、縱隔
 腫、肺膿、胃腸、九)心臓病(十)腎臓病、消化器病

- 鑑別疾患
- (一) 急性喉頭炎
 - (二) 加齢性喉頭炎
 - (三) 格魯布性肺炎
 - (四) 流行性感音月
 - (五) 乾性肋膜炎
 - (六) 急性葉狀肺炎
 - (七) 梅毒性肺炎

リハ三九交以上、熱ヲ甚クシテ、高熱ニ搖痛ノ感
 及劇ニキ咳嗽刺戟アリ咳嗽ノ後胸骨ニ沿ヒテ疼
 痛ヲ感ズ或ハ高熱ニ對面ノ存在ニ如キ感アルコト
 リ胸骨部ノ皮肉ヲ圧スルニ從テ其知覺過敏ナル咳
 嗽頻發スルニ著痰ナシ(乾咳)其咳嗽荒疎ニシテ
 一種ノ響アリ本病ハ多クハ氣管加齢見ラ係著ニ
 (氣管氣管支又加齢見)此場合ハ喉頭鏡ヲ以
 テ氣管ヲ窺フコトハ一ツ之ニ依テ氣管支分岐部ノ
 殊ニ甚ク侵シタリ認メテ咳嗽ニキキハ
 胸痛ヲ著シテ聲音屢ニ嘶嘎ス咳嗽刺戟ニキキハ
 喀痰中ニ血絲ヲ混シ或ハ嘔吐ス
 病ノ初期ニ全ク喀痰ナキニ屬シ粘稠ニ粘塊

痰ヲ咳出し遂ニ膿狀痰ヲ出シ其量多ク咳出容易

トナシ(熱痰)
 生理學的症候ハ僅微ニシテ唯乾性及濕性囉音
 ノ間々性呼吸延長ニ且鏡利トナレコトアリ

経過ハ二三日乃至一二週日ナリ

(乙) 急性小氣管枝加齢見
 (毛細氣管支支支)
 通常大氣管支加齢見ノ後次進行スルニ依リテ本病
 著スルニシテ呼吸ニ初メヨリ本病ノ現ルコトアリ小兒
 ハ其細氣管支又口徑甚ク狹小ニシテ僅微粘膿ノ
 腫脹並ニ分泌物堆積ニ由テ容易クニ鼻塞セラレ
 空氣ヲ流通セザルニ由テ本病ヲ著セ易シ又小

児毛細管受氣受老^ニ進リ^テ肺胞ニ^{シテ}及^ル
氣管支^ニ肺^ニテ^テ後^ニ老^ニテ^テ人^ニテ^テ衰^弱
及^テ脱^力ノ^後候^ニ早^期ヲ^テ現^出シ^テ分^泌物^ノ咳^出
困難^ニシ^テ氣^管支^内ニ^テ萎^縮シ^テ氣^管支^内ニ^テ肺^末
ヲ^テ多^クシ^テ

亦^テ老^ニテ^テ頭^部者^ノ亦^テ候^ニ呼^吸以^テ困難^ニシ^テ呼^吸
數^増加^シテ^テ一^分時^間ニ^テ五^十乃^シ以^テ十^分ニ^テキ^ハ十
ニ^テ及^ブ胸^部ニ^テ吸^氣的^肺泡^ノ白^濁呼吸^ノ
現^ハシ^テ且^テ副^{呼吸}以^テ肺^泡心^ノ患^者ニ^テ副^{呼吸}肺^泡
働^キテ^テ空^氣ノ^入ラ^ズシ^テ爲^スニ^テ上^ニテ^テ方^クシ^テ何
臥^位若^クハ^テ坐^位ヲ^テ認^ムカ^ニ見^ルハ^テ抱^擁ヲ^テ認^ムカ^ニ病
勢^増進^スシ^テ患^者ノ^皮膚^蒼蒼^青色^トシ^テ遂^ニ

炭酸中^ニ起^ル

純^粋毛^細管^ノ打^撃上^ニ別^ニ其^状ヲ^認メ^テ聽^ク
診^スル^ハ細^小水^泡音^{アリ}呼^吸音^鏡
ニ^テ往^テ断^続ス^唯之^日鏡^多ク^ハ呼^吸音^多ク^少
之^ニ掩^シテ^テ咳^嗽甚^シカ^ラ咳^痰ハ^初期^ニハ
僅^微ニ^テ粘^稠ト^シ硝^子様^ノ痰^也即^チ所謂^生
痰^トシ^テ熱^痰ト^シ細^小氣^管支^又コ^ク分^泌物^ヲ
シ^テ咳^痰ハ^空氣^ヲ含^マセ^テ以^テ之^ヲ水^中ニ^投ス^ル
器^底ニ^沈降^ス
熱^ハ三^十八^九交^向鼻^汗多^クハ^他張^性ニ^テ朝
下^リ夕^上ル^三十^九交^向上^ノ熱^數日^向稽^留ス^ルハ^肺
水⁽所謂^氣管^支及^肺末⁾ヲ^テ含^保ス^ルモ^ト認^ムカ^ニ

- (一) 肺結核
- (二) 肺壞疽
- (三) 肺膿瘍
- (四) 氣管支炎
- (五) 氣管支擴張
- (六) 穿孔性胸膿

脈搏ハ極ニ速シテ甚ク頻數トモ尚呼吸ノ後息ニ準テ々々ナシト病勢危篤ニ赴クハ脈搏大ニ増加シテ見エラレクハ一向ニ下テ下テ二百以上ニ達スルニ經過ハ一二週乃至數週間

(丙) 慢性氣管支加唇兒

中大氣管支枝ニ及スルモノニテ極テ其主徵ハ咳嗽咯痰及呼吸困難ナリ咳嗽ニ通テ其夕ニ強ク氣管支變換時及寒冷ノ季ニ常ニ劇ク咳痰ノ量及性質ニ亦區ニ別テ之ヲ認メ其咳僅微トナリ或ハ短ク饒多クナリ咳痰ハ多ク粘液膿狀ナリ折於上肺ニ變化ナリ聴診上管支紡絲聲、中大水泡音ヲ聞ク

本症ニ更ニ尤白種ニ別ツ

(一) 乾性氣管支加唇兒 本症ハ分泌物僅微ナリ咳嗽ハ甚ク劇ク往々痙攣狀ヲ呈シ本症ハ屢ニ老人ニ發シ多ク肺氣腫ニ流ダシ肺ヲ聴診スルニ全胸部ニ厚ク笛聲、箭聲、紡絲聲、脈唸音等種々ナル乾性囉音ヲ聽ク

(二) 單純性氣管支加唇兒 前症ニ反シテ肺ニ多量ノ粘液膿樣痰ヲ咳出ス咳痰全ク膿ヨリ成ルハ之ヲ氣管支膿瀰ト云フ

本症ノ特異ナル點ハ咳嗽ノ性状ニアラズニテ其量ノ饒多クナリ

(三) 漿液性氣管支加唇兒 本症ハ甚ク稀有ニ疾

患三層之稀薄透明血色ニテ、泡沫ニ富ミタル多量
ノ痰液痰ヲ咳ケル、其咳出ニテハ、咳嗽ノ聲ニ伴ヒ
之ガ為ニ小咳白ヲ現ス、下ノ時ニ喘息ノ如キ呼吸困難
ヲ其心ニ咳症候ニ其其心増強ス

四層為敗性氣多ク、其見、氣管枝内ノ咳痰
ノ腐敗微菌ノ為ニ患ニ其ノ故ニ、以テモ、ミテ多ク
ハ氣管支及肺ノ疾患ニ誘ヒ、患者ノ呼吸氣ニ
臭氣ヲ帶ジ、傍人ノ嫌惡ヲ招ク、ミテ、患者ノ
身モ亦之ガ為ニ唇ヲ青クシ、此臭氣、咳痰
ノ新氣ニモ、亦、混ル、咳痰ヲ新氣ニ、ハ、
シテ三層トシ、其下層ハ微細ナル顆粒状ヲ呈ス、
灰白色ハ、沈降層ニシテ、中層ハ粘厚ナル帶

綠色ノ稠濁シ、粘液ヲ成シ、全咳痰ノ大部分
シ、上層ハ多ク、沈降層ヲ混ル、粘厚顆粒状ノ塊
チ、下層ナシ、細小ノ塊(菌性氣管支枝ノ子、ゲッ
ト、ト、粒ノ子)アリ、此ノ塊ハ、數百ニ若ク、帶黄灰
白色ニシテ、粟粒ノ如シ、大者ハ、其以上ナリ、試ニ
ニ、指頭ニテ、壓ス、ニ、集粥状ノ稠交ラ有シ、甚ニキ
臭氣ヲ呈ス、顆粒鏡下ニ接シ、線状菌及
芽胞ノ存スルヲ見シ、此菌、即チ肺脈シ、ト、ト、
其、ニ、テ、法、ニ、對シ、テ、特、異、ノ、反、應、アリ

診斷 氣管支炎ノ診斷ハ、向テ、容易
ナリ、咳嗽、痰、其、性、囉、ホ、ノ、微、弱、ニ、呼吸
音、從、テ、或、ハ、肺、音、先、肺、脆、音、延長、先、呼吸

言ハシニ其ノ性ハ病後即チ渴言ハ其如ニ依レ
本病ハ喘言ハ性質ニ由リテ其ノ病ハ部位ヲ推知シ
以テ之ヲ経緯子及大ニ泡言ハ大氣ヲ去ル
普兒ヲ示シ肺言及氣言ハ小氣言
細言ハ泡言ハ形後特呼
其ノ性ハ喘言ハ又喘言ハ性質ニ由リテ必
物ノ性ハ喘言ハ必肺病ニ由リテ必
ハ乾性喘言ハ必肺病ニ由リテ必
喘言ハ必肺病ニ由リテ必
本病ハ其性ニ由リテ多ク慢性病ト
區別ニ慢性病ハ其性ハ喘言ハ性質ニ由リテ
ニ之ヲ救肺ニ由リテ

豫後 多クハ急ト成ル人乃チ也、氣言及又加言

鬼ハ物ハ急ト成ルモ細言及又加言

療法 心臓病若シ肺氣腫言ハ慢性病言

本病ニ肺病言ハ其ノ病ハ喘言ハ必肺病ニ由リテ必
新ハ乾性喘言ハ其ノ病ハ喘言ハ必肺病ニ由リテ必
喘出シ難キモノ用ヒ遠志言ハ其ノ病ハ喘言ハ必肺病ニ由リテ必
ノ氣言及又加言ハ其ノ病ハ喘言ハ必肺病ニ由リテ必
テ之ヲ喘言ハ其ノ病ハ喘言ハ必肺病ニ由リテ必
云ハニ肺病言ハ其ノ病ハ喘言ハ必肺病ニ由リテ必

粘滑甘味物例之ハ甘草黄飴ノ如キモノハ咳

ヲ輕減せん效アリ

室内ノ湿度ヲ平字ニ溫暖せしめ且空氣ヲ濕
潤ナラしめば咳嗽ヲ輕減し得べし大氣多ク加
蓋見ハ呼吸ノ效ヲ衰スルナリ呼吸ノ後トシテハ
アハカシ暖液例之ハ食塩水ヲ用ニ咳嗽後々々ハ
稀薄ナル毎碎ニ用フ佳ニプリスニテハ電
法ヲ用ニテ胸部ヲ平字ニ溫暖スルニ效アリ
毛細血管ヲ多ク有ラシム必液物ヲ多ク呼吸
積ルヤハ其毒弱中ニ有ラズ中ニ吐物ノ用
或ニ連者ラシム極法ヲ取ルニ胸部若クハ喉部呼吸
吸才和部ニ冷水ヲ灌ルハ連者不隨意ニ呼吸
免ラシム之ガカニ氣管ノ疏通有ラリ

第二 纖維素性氣管枝炎

(格魯布性氣管枝炎)

- 一 氣管枝炎
- 二 格魯布
- 三 急性肺炎

原因 (一) 寒熱地氣 (二) 肺炎ノ人傳染病 (三) 肺
心脱ノ人傳染病 (四) 有善クハ危斯及 (五) 液体ニ由
ル粘痰ノ形成 (六) 痰ノ中ニ毒ニシテ病原ノ不純

解劑 氣管枝内ニ纖維素ニ富ムル甚ク凝
固シ易キ痰ノ粘ラ生シ、氣管枝ノ像型ヲ為セ
ル咳嗽ヲ生スル之ヲ隨檢スルニ形或ハ纖維
狀ノ層ヲ為シ其中ニ白血球ト上皮細胞トシヤルニ
シテ結晶及細菌アリ

症候

甲) 急性症 數多ク氣管枝ヲ侵シ大氣管枝

各管中生氣管枝炎

（）呼吸器に慢性疾患あり
氣管支及喉頭に蔓延し、室息を起さずは危險あり
（七）慢性肺に小氣管支に侵し急性肺如流
に蔓延せしむる兩者共に氣管支に枝に炎症
の現れを纖維系凝固物、嗜酸性球の固
有の点より示す

此凝型の嗜酸性球の氣管支に侵し、急性肺候
氣管支に枝に侵し、慢性肺候より起す可

合併症 是も屢々本病に合併する結核或
者枝に蔓延し及肺をより示す

診断 肺上部に於て呼吸音、微弱若くは消
失即ち氣管枝狭窄、微鳴り、而して固有の嗜痰
の痰出せる中に於て診斷困難なる本病に氣管支に

喘息、葉挿挿葉及肺をより示す
7777

豫後 急性水、急慢性の定まるる後、急慢性の
慢性、心、肺、腎、肝、良し

療法 肺、心、活発にする、カルシウム、ビタミンD
の補充

凝固物の溶解を促すに、蒸氣、若くは石灰水を吸
入せしむ其他の吸入療法は炭酸加里、山梨酸ナ
トリウム（一%）乳酸（二乃至五%）の吸入（ハイリ）

（五%）の吸入を用ふる者あり

第三 氣管枝擴張
解剖 中、大、氣管支に、其のそのその形

（一）同柱状若久仿鐘状（二）囊状二種
此二種之區別中多數十九日柱状極長之

患部之氣管及肺膜慢性如若也三層之管壁
或八肥厚之或八石炭化ス

患部（肺）肺組織或八氣腫ヲ起ス或八萎
縮（所謂肺硬結）ヲ来ス肋膜之炎症多ク限ハ

テ々志ノ擴張也天ヲ認テ了

原因 本病ハ常ニ氣管及肺尖部若クハ
肋膜慢性病ニ続キテ氣管枝ニ至テ狭
窄セル片若クハ閉塞也牛ノ液ノ集積ニ由テ患
部狭窄ノハ空ニ氣ノ集積ニ由テ生ズ

症候 氣管枝極長殊ニ圓柱状極長ハ慢性
氣管支炎ノ症候クモ同クニ極長ノ慢性

少クハ囊状極長ニ至テ短時ハ内ニ多クハ
嚔出ス山イノトリニ嚔出ス嚔出ノ極多クハ

殊ニ夜間極長部ニ嚔出ス分泌
時ニ嚔出スルヲ以テ格ニ嚔出ノ極多クハ

出シ多クハ極長ノ極多クハ嚔出ス嚔出ス

体位ニ至リ嚔出ス嚔出ス嚔出ス嚔出ス

八患者安靜ニシテ咳ヲ他側ニ於テ咳
痰アリカキテ了リ咳痰ハ薄キ膿ニシテ

夜間六二層ニ其下層ニ純膿ニ上層
八僅ニ混濁也稀薄ノ痰也

呼吸困難、若くは僅微う胸痛を起す
固有たる細菌的検査を行ふこと、
肺菌の種、往々患者の手に指齧り、鼓槌
（たいていはばち）状に膨大する（鼓槌状指）
本物理学的な症候、空洞の存在、
胸廓の（一）視診をて、部を即ちは壁及肋骨
扁平となり、此部より呼吸運動微弱なり
（二）觸診をて、硬元及重なり、八七音、音震、頸缺
知し之及るは、
（三）打診をて、空洞内、液、存在し、空気が存在し、
（四）叩診をて、或は濁音たり、或は鼓音たり、

其他ウチ、打響交換、
換、破鼓音、錐性呼吸、
四、聽診、
音、微弱若くは消失、
ラ、聽取し、且、水泡音、
長、在る、
聽、

合併症、
診、
鑑別、
潰、

肺膿瘍、肺壞

慢性氣管支炎

(五)慢性氣管支炎若ハ腐敗性氣管支炎ニ

豫后 治法

療法 目的ハ擴張部ニ蓄溜シ分泌物ヲ排泄

シ其滯積ヲ防ギ且分泌ヲ抑止シ分泌ヲ制止ス

ルニテ

分泌物ヲ排泄シ促スニ祛痰劑若ハ吐劑ヲ用

分泌ヲ抑止シ難效ヲ防グ目的トシテ「エデニ油蔴

芥油」ナストルカモ「ル」ニ「ブル」ニ「ベ」ト云ハル

ニ内服若クハ吸入セム

第四 氣管枝枝炎

原因及解剖 氣管ニ存在部ニ由リテ氣管

枝内性、氣管外性、及氣管支枝壁性トシ

種ニ區別ス

(一)氣管枝内性枝炎ノ原因ハ(1)異物(2)氣管

枝内ニ増殖スルニ惡性腫瘤

(二)外性枝炎ノ原因ハ(1)淋病(2)肺腫大(3)大動

脈瘤(3)縱隔洞内ニ在ル腫脹(4)心囊上ニ在

心囊水腫並ニ右上房ノ橋長(6)脊柱胸骨

及肋骨ノ其ニ膿瘍(7)肺腫瘍(8)食道

腫瘍等

(三)壁性枝炎ノ原因 (1)微毒性潰瘍(2)癌

痕形成(3)氣管支枝周圍ニ(3)腫瘍(4)急性肥厚

症候 主徴ハ呼吸困難

枝管ノ氣管支ニ在ルニハ、而肺ニ、大ニ氣管支

二存る片一也ノ肺ニ空氣ノ侵入困難トシ
殊ニ吸氣ハ甚シク障礙を以テ吸氣延長
シ呼吸緩徐トス。胸廓軟弱ニ吸氣の際没
ラ認め(1)視診)

(2)觸診ヲ行フニ狭窄下部ニ於ケル声音震顫
減退若クハ消失シ(3)叩診上患部ニ代調若ク
ハ鼓音ヲ呈ス、肺下界ニ於ケル呼吸ニ由リテ生
ル伸縮ハ或ハ微弱トシ或ハ消失ス(4)聴診ヲ施
スニ患部呼吸音微弱若クハ全ク消失シ屢
著明ノ狭窄音ヲ奏ス、氣管枝音ハ微弱ト
リ若クハ消失ス

△**診断** 狭窄ヲ証スルニ他狭窄ノ部位及ヒ

原因ヲ認知スルヲ要ス

本病ト喉頭狭窄ノ鑑別ハ後者ハ呼吸ニ多クハ喉
頭ノ甚シク上下ニ昇降スルヲ認め、尤モトモニ依リハ喉頭
狭窄速者ハ頭部ヲ后方ニ屈シテ呼吸ヲ容ルトス

△**豫后** 多クハ不良

△**療法** 多クハ效ナシ、梅毒ノ疑ニ者ニ驅梅毒療法
ヲ行フニシ、異物ハ内ニ狭窄ヲ起スモノニ直ニ吐劑
ヲ用フ

呼吸困難ノ急作ル片ハ注息シテ呼吸劑ヲ用フ

第五 氣管枝喘息

鑑別疾患
一 肺氣腫
二 心臟神経痛

呼吸困難ノ急作ル片ハ注息シテ呼吸劑ヲ用フ

- (三) 慢性氣管枝炎
- (四) 声門痙攣
- (五) 喉頭及氣管狭窄
- (六) 右環狀披裂筋
- (七) 慢性橫膈痙攣
- (八) 厭死夢
- (九) 心臟性窒息
- (十) 胸氣衝心

呼吸器不全症

第四章

肺臟上疾患

第一 咯血

咯血中肉眼多認るは血液、混和せし咯血下を其血量多キハ肺出血ト稱シ大血管、破裂若シ肺創傷了ラ致令、出血ハ肺中ニ稱ス

原因

- (一) 呼吸器周囲、結核ニ依ル
- (二) 血管枝、粘膜炎及潰瘍
- (三) 気管支粘膜、機械的化學的及濕熱的刺激
- (四) 肺壞疽及肺膿瘍
- (五) 肺、若シ肺、傳染病(イナフルエラ、肺、不)
- (六) 気管支枝、若シ肺、傳染病(イナフルエラ、肺、不)
- (七) 植物

- (一) 鮮血
- (二) 暗血
- (三) 喉頭及氣管出血
- (四) 吐血
- (五) 出血性梗塞
- (六) 肺ガストマ

寒性咳血(肺ノ放線状菌病、肺ノ不バシキス)
赤(八動)物性(寒性)咳血(肺ノ不巴シキ)九肺ノ腫瘍
(十全)身ノ寒性障礙及仔係病(土)宗孔性咳血(土)
熱性咳血(土)出宜性(土)梗状梗塞(土)代傳性肺生
白血(肺)性咳血

咳血、春期ニ多ク、夏ニ少ク、秋ニ多ク(ベルッ
中ニ依リ、春ニ於テ一月、夏ニ四月ノ間ニ咳血スル者
殊ニ多クトス)

症候 概シ咳血ニ先キ一程ノ血行ノ不調ヲ即チ
胸骨ノ下方ニ於テ濕キ後ノ痛キ上ルヲ覺テ或ハ口内ニ
一程ノ鹹味若ハ臭氣ノ感ニ覺テ咳血由リテ血痰ヲ咳
出ス

血量、少キハ一二滴多キハ一リトモ以上ニ及ブ通者
患者ハ血量ヲ過大視スルモノトシテ其告状ニ就テハ医
師ハ注意スルヲ要ス(血量少キハ、痰中ニ血点若
ク血線ヲ現シ、稍々量多キハ、血痰ト咳血ト能
ク混ルシ、或紙血ヲ咳出ス、新々咳血、鮮紅血ナ
シ、且氣管又ハ内ニ蓄積シテ古クナリテ血痰、暗色褐
色又ハ黃色ヲ呈ス)
咳血ノ理學的症候ハ顯著トス、血痰ノ氣管支
内ニ存在スル、濕性囉音ヲ奏ス、肺野上濁音トシ
要スルニ咳血患者ノ理學的診法價値少ク
加之此ヲ診法ニ其ノ他、僅微ノ運動、深呼吸
等ニ由リテ新々ニ出血ヲ惹ク危險アリテ咳血

患者ノ診察ハ十ノ種信ナリト云フ

後ニ咳血時ニ熱起スルコトアリ

△**診断** 咳血ノ最モ多キ原因ハ呼吸器及循環器ニ在リテ呼吸器ヲ檢スルニ

△**豫收** 咳血ノ豫收ヲ定ムルニ咳ノ重ノ注意ヲ要スルニ咳血ノ危険ナルヲ屬シ咳血ヲ豫收スルニ

△**療法** 咳血ヲ止ムルニ十分ニ患者ノ常氣ヲ鼓舞シ患者ヲ絶對的ニ安静トシテ呼吸器ヲ檢スルニ咳血ヲ止ムルニ抑止セシムルニ

補用セラルルハカハ塩コシテ其一合長ク少許ノ水溶解シテ服用スルハ止血ノ效アリ 咳血ノ原因ニ咳血ニハ

咳血ニ對シテ有效ナル藥劑ハ麻酔藥ニテ之ニ由リテ患者安カキトナリ 咳血ノ原因ニ咳血ニハ
麻酔藥トシテハハルマシカ(一四〇、〇二五、〇一)ハ
片(〇、〇一五、〇〇三)ハ片下敷モルニ(片下敷モル
トナリ)同量〇、〇〇二五、〇〇五、〇〇五)増強ハ片下敷
(〇、〇〇二五、〇〇五、〇〇五)増強ハ片下敷
至〇、〇一五)チホシ(〇、〇一五、〇〇一五)チホシ
内服、皮ニ注射、浣腸又ハ坐薬トシテ用フ
白血凝固性ヲ増シ或ハ血液ヲ濃クトスルハ

出血止すはしりあり此目的をゲラチン、溶液、
内服或は注射を用ふ其他増化アトレシム、皮膚下
注射ヲ試ム

第二 寄生性咯血

(肺臓ニ口虫)

原因 我國ニ於テ本蟲ハ殆ド到ル所ニ存ス或地
方病性ニ或散在性ニ存在スト云フ

女子ヨリモ男子ニ多ク十六歳以下三十歳向ニ多ク職
業ノ中農モ多ク本病ニ侵セハ者ハ農民ナリ

解剖 肺臓ニ嚢胞ヲ形成ス其空洞内ニ常に二
個ノ蟲ヲ含ム生活モ農ノ伴隨ニシテ自ラニ空洞
中ニ嚢胞他ニ是卵及シヤレコノモ皆見ラ見セ

空洞ハ氣管枝ト交通シ其内ニ内容物ヲ漏ラシ畢
竟空洞ハ氣管支ノ擴張ニ他ナラズ

肺臓他、嚢胞ニ本蟲若クハ卵ヲ形成シ病
竈アリ

本蟲ハ常嚢胞ナシヲ呈シ卵内形ニシテ縦徑六乃
至十ミリ、横徑四乃至七ミリ密着アリ其両端ハ
圓シ殊ニ一端ハ鈍ニシテ内錐状ノ尖起即チ頭
部アリ呼吸器ニ寄生シ腹吸盤ハ稍大ニシ
テ体ノ中央部ヨリモ少シクその方ニ位ス是卵ハ黄色
ニシテ長サ〇.〇八乃至〇.一ミリ、幅〇.〇五ミリ、
了子ハ楕圓形ニシテ体ノ周圍ニ刺毛ヲ有ス

症候 癆病(咯血ノ初發)ハ年々高ク振ハスアリ

或感胃弱發熱或乾性又濕性肋
膈痛或咳嗽或喉痛或喉乾或喉
癢、在喉者、此起、

咳嗽、多、輕、喉癢、新、血、脈、浪、如、由、リ、テ
其色、澤、大、不、同、ア、黃、色、褐、色、乃、暗、赤、色
之、多、而、一、種、厭、フ、キ、臭、氣、即、醒、臭、ヲ、發、シ、水
分、之、多、粘、液、ニ、富、ミ、テ、咳、痰、モ、粘、稠、ナ、疾、
ノ、量、モ、少、キ、ト、ス、或、一、日、百、三、方、仙、米、ニ、及、ブ
ト、多、キ、モ、五、十、キ、ハ、僅、ニ、百、三、方、仙、米、ヲ、認、シ、ニ、
キ、多、キ、一、日、二、三、百、三、方、仙、米、ヲ、超、ス、多、量、ノ、咳、痰、
ハ、本、病、ニ、於、テ、咳、痰、ノ、原、因、未、ダ、説、明、ス、ラ、ル、ト、
ル、本、病、ニ、於、テ、咳、痰、ノ、原、因、未、ダ、説、明、ス、ラ、ル、ト、
ル、本、病、ニ、於、テ、咳、痰、ノ、原、因、未、ダ、説、明、ス、ラ、ル、ト、

血液ヲ吸取ス由リテ發スルヲ疑フモ、

○肉眼的検査 咳痰ハ時トシテ螺旋状ヲ爲ス疾ハ
線状ヲ爲ス或接糾シテ縷毬状ヲ爲ス疾ハ幅ハ一
密迷長サハ三四仙米以上アリ多クハ蒼色トシテ、
淡紅色、褐色、魚腸樣色ヲ爲ス、此螺旋状咳
痰ハ小氣管支ノ像型ニシテ喘息螺旋、如キモ之ヲ
モ大ナリ

稀ニ本病ノ咳痰、
○顕微鏡的検査 卵、金、黃、毛、楯、圓、形、ニ、シ、テ、
其鏡端ニ莖ヲ有シニ層、菲薄ニ界線アリ卵ハ
大ニシテ屢ニ遭遇ス他ノ管生虫卵ニ比シテ顯然大
肺ニ貴性咳痰中ニ殆ド常ニ大小ノシマルコトモ、

晶ウ舎有之
 肺部之变化ハ速者ハ概ニ多少肺部ニ变化アリ
 其主ニモノハ萎縮ナリ概言スルハ打診上ニ成後多
 久陰性若クハ僅微ニシテ其变化ハ主トシテ乾性
 肋膜ニ後ノ胸廓萎縮ニ固ス
 呼吸音ハ肺胞呼吸音ニテ微弱若クハ粗厲ナリ
 呼吸ハ延長スルヲ或ハ兼首ニ杖音ハ熟スルヲ
 或ハ不定音ニ了了無陰性大中小湿性
 水泡音啾々音紡絲音脈陰音等アリ
 亦ハ大聴入此湿性ハ水泡音及乾性囉音ハ本病
 ニ随者ニ多シ氣管炎又ハ肺炎ハ為ス
 往々本病患者ハ胸痛ヲ覺スルヲ此胸痛ハ

肋膜炎ハ為ニ少スルモノトス
 △合併症 (一) 肺結核合併症 肺結核合併症ハ比較
 的ナシトモ本病ハ其健ナル患夫ラ侵スニ多キト
 本病ハ肺結核ヲ誘起スルニ少キトモ内サレド
 診斷困難トモ為ニ結核合併症ヲ看スニスル
 場合モ少ナクも
 (二) 肋膜炎合併症 其多クハ乾性ニテ湿性ハ稀シ
 (三) 肺病合併症 本病ハ併發スルニ多ク且ツ家ニ
 患呼吸ハハ肺病ハニヤクナルモ癩癩瘰癧瘰癧瘰癧及麻
 痺等ナリ
 △經過 類慢性ニシテ數年ニ亙ル
 △豫後 生年ニ對スルハ區ナクニ疾恙ナシニ對スルテ

ハ不食チ

△**診断** 喘疾ノ性狀(褐色乃白魚腸樣色、粘稠) 又喘疾ノ頭微絶的検査(貴卵及ニマルコ)

一也(姑息)ニ依ル

○**鑑別**ラチ病ノ(一)肺(二)肺(三)肺腫 中子ノ胸廓萎縮(四)喘息(五)肺腫(六)肺腫

△**療法** (甲)豫防法 (一)咳疾ノ一定ノ症ニ至ラズニ付

ニ便因之(カク)三河(水)流(貯)ル(カク)飲用若
シ生(カク)カク(乙)根治(肺)性(カク)今日(カク)カク
飲用(カク)枯(カク)カク(カク)カク(カク)カク
固(カク)且(カク)カク(カク)カク(カク)カク

第三 氣胞性肺炎腫

△**解剖** 肺腫(過)交(空)氣(全)蓋(依)リ(カク)異(カク)カク

一急(性)肺(氣)腫 其(接)長(一)ニ(性)カク(再)ニ消
カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク

二慢(性)性(肺)氣(腫)肺(接)長(カク)性(カク)カク
カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク

肺(廓)ノ(部)見(カク)肺(性)全(狀)態(カク)カク(カク)カク
カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク
カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク
カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク
カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク(カク)カク

- (一)氣管炎ノ(カク)カク
- (二)心(肺)腫(化)
- (三)赤(腫)命(缺)損
- (四)動(脈)弱
- (五)氣(胸)
- (六)急(性)肺(腫)脹
- (七)先(天)性(肺)肥(大)

市底重

降之而肺之全容積が著しく増大せる

氣腫、好占、肺、失、終、乃、亦、内、縁、之

本病、組織的、変化、肺、膨、脹、し、肺、泡、間、隙

壁、其、若、育、不、已、い、や、或、其、液、壁、全、部、消、失、し、て

多、く、肺、泡、は、萎、縮、し、一、個、の、氣、泡、が、形、成、さ、る、而、し、て

肺、泡、上、漏、斗、ト、境、界、不、明、ト、す

本病、之、於、て、色、如、黃、若、と、減、少、さ、る、之、が、お

二、肺、之、若、血、不、流、右、心、肥、大、ラ、起、ス、ニ、由、リ

患、肺、弱、力、減、退、シ、テ、之、を、消、失、ス、ル、が、如、シ、セ、ド、之

ヲ、抗、力、弱、シ、キ、ル、也

原因 本病、之、原因、ハ、如、シ、ト、シ、テ、性、年、以、上

の、者、に、若、し、男、子、ハ、女、子、ヨ、リ、モ、之、に、罹、ル、者、多、シ、慢、性

氣、管、炎、又、カ、差、欠、不、心、者、ハ、肺、之、張、圧、ヲ、高、ク、シ、テ、若、シ、本

病、ヲ、甚、シ、ク、シ、及、一、度、ハ、心、筋、衰、乏、キ、本、病、ヲ、誘、起、ス

ニ、由、リ、テ、

他、ノ、疾、患、ニ、シ、テ、モ、本、病、ヲ、誘、起、ス、ル、ハ、喘、息、及、不

日、咳、ナ、リ、亦、右、ノ、慢、性、肺、氣、管、炎、ヲ、起、シ、始、者、ハ、氣

管、肺、氣、管、炎、ヲ、起、ス

肺、氣、管、炎、ハ、若、シ、テ、就、テ、二、種、アリ、其、一、ハ、器、械、的、に

シ、テ、他、ノ、疾、患、を、誘、起、ス、ル、也、(一)器、械、的、に、傷、ム、ル、事

ハ、大、抵、氣、管、炎、ハ、呼吸、器、障、碍、ニ、由、リ、テ、本、病、ヲ、起、ス

ニ、由、リ、テ、(二)器、械、的、に、傷、ム、ル、事、ハ、肺、泡、間、隙、炎、等、ヲ、誘

起、ス、ル、由、リ、テ、之、ヲ、起、ス、ル、也

本、病、ハ、一、定、ノ、原、因、ニ、テ、若、シ、ル、モ、ノ、ニ、テ、亦、ハ、之、に、或

甲、病因ニテ若シ或ハ之ノ病因ニテ若シ或ハ之ヲ
 示サド、令儀シケルモ、
 症候

本病ノ為ニ若シ或ハ之ヲ示サド、令儀シケルモ、
 呼吸及呼吸ノ症候ニテ若シ或ハ之ヲ示サド、令儀シケルモ、
 一部廢滅シテ呼吸力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、
 呼吸ノ力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、
 呼吸ノ力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、
 呼吸ノ力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、
 呼吸ノ力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、

呼吸困難
 呼吸困難
 呼吸困難
 呼吸困難

亦呼吸困難ヲ誘起スルモノトシテ此宜ナリ
 碍ヲ代償スルニ肺右室ニ擴張及肥大ニ起
 シ、
 如ク呼吸困難トシテ相呼應シテ呼吸
 困難

○理学的死候

一視診 胸廓擴張ニテ内形ナ
 洋樽状又ハ大鼓、
 頸部脈ノ腫脹ニ
 骨上宮、
 胸鎖乳嚔筋及斜角筋等ノ呼吸補助
 筋ノ若シ或ハ之ヲ示サド、令儀シケルモ、
 呼吸困難ニテ呼吸力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、
 呼吸ノ力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、
 呼吸ノ力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、
 呼吸ノ力即チ弱ニ收縮力強健セ
 ン、

動之微弱ニテ呼吸終リ之於テ胸部高呼吸氣
の位ニ至リテ如ク其態ヲ見テ其ノ如キ胸廓ヲ常
以息胸廓トシテ

(二) 胸診 胸廓ノ抗拮増カシ呼吸運動微弱
ニテ呼吸震動若ク微弱ニ呼吸圧ハ呼吸

圧ヨリ微弱トシ呼吸圧減退ス

(三) 打診 肺容積増大ニ其下縁線下ニ肝
臓ヲ下ニ拮圧ス大肺ニ於テ心臓肺ノ被

覆モ心臓容積莫小若クは後者ニ肺縁呼吸
動移動微弱若ク消失ス

打診音ハ其ノ位細シク充滿セテ又屢
空虚ニ延運テ鼓カ如キニテ鼓ス(匣音)

(四) 聴診 呼吸音微弱若ク不定ニ呼吸音ハ
余ク清々シ聴診ノ際聴診管ノ動クニ感スルモ

之モ呼吸音ヲ聴取セバ下ニ呼吸音延長
ノ様ニ乾性囉音及大ニ濕性囉音ヲ聴

心臓左室増大ニ肺ノ為ニ被覆セシテ
外觀的ニ心臓容積小トモ肺容積大ニ

呼吸音

○ 合併症 肺氣腫患者ハ初期ニ氣管炎
中ヲ起シ易ク又常ニ肺萎縮トシ

△ 診断 定成ニ肺氣腫ニ洋樽状胸廓
呼吸圧及肺活量減少肺下界延長

肺縁呼吸の移動の匣音呼吸音

微弱、呼吸延長、脈毎分亦二三、冷感及
紫血状、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三

鑑別、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三
○鑑別、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三
(一) 急性肺膨脹 (二) 氣胸
(三) 先天性肺肥大 (四) 代償性呼吸腫
(五) 喘息

△経過及豫后、経過、後慢

経過、後慢、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三

△療法、療法、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三

療法、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三
呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三
呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三

原因、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三
呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三
呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三

第四 肺臟水腫

原因 (一) 急性中毒、呼吸延長、冷感、紫血状、脈毎分亦二三

市人重

(一) 肺小腫

鑑別疾患
 (一) 肺下性肺炎
 (二) 肺布性肺炎

字の文字、胞水が多し、その文字、法文字、内服、(二) 肺
 疾患、即ちストレプトコッカス肺炎、(三) 肺、ストレプトコッカス肺炎、肺
 動脈、栓塞、硬結子、(三) 肋膜炎、疾患、即ち肺
 炎、性肋膜炎を、経過中、五、肋膜炎、少くも、肺、穿通
 性、肋骨、(四) 急性、劇症、性、肺炎、即ち、急性、性
 喉頭、炎、(五) 肺、梗塞、(六) 血、管、炎、(七) 腎、臓、病、(八) 急、性、性、腎、臓、炎、(九) 肺
 及び、肺、疾患

解剖 肺、容積、増大、(一) 収縮、(二) 伸縮、(三) 之
 力、(四) 圧、痕、(五) 切、割、(六) 其、向、(七) 泡、膜、(八)

富、(九) 毛、(十) 腺、(十一) 結、核、(十二) 液、(十三) 漏、(十四) 肺、(十五) 浸、(十六) 染、(十七)

軟、(十八) 壊、(十九) 傷、(二十) コ、(二十一) ハ、(二十二) ム、(二十三) 及、(二十四) ラ、(二十五) イ、(二十六) ル、(二十七) ケ、(二十八) ハ、(二十九) 心、(三十) 臓、病

者、(三十一) 心、(三十二) 室、(三十三) 症、(三十四) 候、(三十五) 左、(三十六) 心、(三十七) 室、(三十八) 高、(三十九) 血、(四十) 圧、(四十一) 下、(四十二) 降、(四十三) 者、(四十四)

肺、(四十五) 循、(四十六) 環、(四十七) 著、(四十八) 異、(四十九) 状、(五十) 候、(五十一) 肺、(五十二) 漏、(五十三) 血、(五十四) 候、(五十五) 由、(五十六) 於、(五十七) 本、(五十八) 病、(五十九)

サ、(六十) ン、(六十一) ン、(六十二) ン、(六十三) ン、(六十四) ン、(六十五) ン、(六十六) ン、(六十七) ン、(六十八) ン、(六十九) ン、(七十) ン、(七十一) ン、(七十二) ン、(七十三) ン、(七十四) ン、(七十五) ン、(七十六) ン、(七十七) ン、(七十八) ン、(七十九) ン、(八十) ン、(八十一) ン、(八十二) ン、(八十三) ン、(八十四) ン、(八十五) ン、(八十六) ン、(八十七) ン、(八十八) ン、(八十九) ン、(九十) ン、(九十一) ン、(九十二) ン、(九十三) ン、(九十四) ン、(九十五) ン、(九十六) ン、(九十七) ン、(九十八) ン、(九十九) ン、(一百) ン

症候 本病、呼吸困難アリ、若シ多量、分泌、物
 氣道ニ鬱滞、(一) 存、(二) 在、(三) 候、(四) 候、(五) 候、(六) 候、(七) 候、(八) 候、(九) 候、(十) 候、(十一) 候、(十二) 候、(十三) 候、(十四) 候、(十五) 候、(十六) 候、(十七) 候、(十八) 候、(十九) 候、(二十) 候、(二十一) 候、(二十二) 候、(二十三) 候、(二十四) 候、(二十五) 候、(二十六) 候、(二十七) 候、(二十八) 候、(二十九) 候、(三十) 候、(三十一) 候、(三十二) 候、(三十三) 候、(三十四) 候、(三十五) 候、(三十六) 候、(三十七) 候、(三十八) 候、(三十九) 候、(四十) 候、(四十一) 候、(四十二) 候、(四十三) 候、(四十四) 候、(四十五) 候、(四十六) 候、(四十七) 候、(四十八) 候、(四十九) 候、(五十) 候、(五十一) 候、(五十二) 候、(五十三) 候、(五十四) 候、(五十五) 候、(五十六) 候、(五十七) 候、(五十八) 候、(五十九) 候、(六十) 候、(六十一) 候、(六十二) 候、(六十三) 候、(六十四) 候、(六十五) 候、(六十六) 候、(六十七) 候、(六十八) 候、(六十九) 候、(七十) 候、(七十一) 候、(七十二) 候、(七十三) 候、(七十四) 候、(七十五) 候、(七十六) 候、(七十七) 候、(七十八) 候、(七十九) 候、(八十) 候、(八十一) 候、(八十二) 候、(八十三) 候、(八十四) 候、(八十五) 候、(八十六) 候、(八十七) 候、(八十八) 候、(八十九) 候、(九十) 候、(九十一) 候、(九十二) 候、(九十三) 候、(九十四) 候、(九十五) 候、(九十六) 候、(九十七) 候、(九十八) 候、(九十九) 候、(一百) 候

後ニ申テ尋常ノ打診音体調ニテ僅ニ鼓音ヲ帯クニテ若シ肺胞内ノ漏液多量ナルハ無氣肺ノ症候ヲ呈ス

呼吸ハ多量ニシテ煩心稀薄且泡沫ニ富シ急性肺水腫其發症急劇ニシテ既ニ數分時内ニ若明ノ病変ヲ呈スレバ慢性肺水腫其症候屢々輕微ナリ

診斷 原因、多量ノ痰液様咳嗽、肺胞内液體貯留ノ理學的症候ニ由リテ診斷ヲナス

豫后 不良
療法 豫防法 肺血管及肺循環ノ障礙ナル物質ヲ除ク酒類、煙草、咖啡並ニモルヒテ、冷生

台々ニシテコテイシ、デオニシテ、在解部使用ニ注意シ、物膜係山、腔ノ穿漏スルキ場合ニ徐々ニ之ヲ行ヒ、決シテ一時ニ多量ヲ漏ラズカラス

既ニ本病ヲ其ニクルル其原因ノ明カナルモノニ原回療性ヲ行フ例之ニ對シ慢性肺水腫ニテキリタルヲ用フニガ如シ

皮膚、腸及胃ノハ、徐々法、即チ芥子油、峻下劑及利尿劑ヲ用スルモノアリ

肺胞内ノ液ヲ排出セシムルニ祛痰劑及以テ用フ

第五 加答見性肺炎

解剖 本病ハ肺小氣管支、加答見ノ肺胞ニ波及シ、

- 鑑別疾患
- (一) 格魯布性肺炎
 - (二) 急性気管支炎
 - (三) 肺癆
 - (四) 粟粒結核
 - (五) 肺腫脹不全

(C) 肺血管性肺炎

及るに由りたる故に氣管枝肺炎と稱あり
 肺ニ大小不同ノ病竈ヲ生じ其ノ病竈ハ氣管
 枝ノ多ク怖ク區域ニ適應ス、病竈ノ大ニ氣管
 枝ノ大ニ比例シ且大ニシテ肺ノ一ト多ク著ルハ數ト
 著ルニ當リ故ニ又ト多ク性肺炎ト稱アリ
 病竈ハ肺ノ下部ニ在るト多ク時トシテ肺
 ノ上部ニ於テ亦在リ沿ヒ連續シテ線状ト
 爲シ肺根始メテ依次枝小トナリテ肺尖ニ至ル
 ルトアリ (線状肺炎)
 肺胞ハ液体ヲ含有シ且中ニ粉トキ白血球ト
 カサノ多ク血球トナリテ肺胞腔ハ全ク之ガ爲ニ
 充タセラル、肺胞上層ハ膨脹シテ氣腫ト稱セ

後中ニ浸スルコトアリ毛細血管ノ擴張肺炎也

原因 本病ノ直接ノ原因ハ細菌小兒ニ於テ
 膜ヲ侵スルコトアリ成人ニ於テハ肺炎、瘧疾、流行性
 感冒ノ後ニ續キ本病ノ原因トナリ細菌性
 肺炎ヲ生スルコトアリトシテホダゲネズ、フリードレン
 テルカノカプセル、バチルス、ス、タヒロコックス、ピオゲネズ
 アウシトシテ生ズルコト多ク後ニ
 本病ハ殆ド小兒ニ於テ多ク老人モ亦之ヲ罹
 ルコト多ク、小兒ヲ侵シ、且氣管支ニカサレ付
 フ傳染病ハ本病ヲ誘起スルコト多ク、肺中ニ
 肺炎ノ病原菌モ百日咳、流行性感冒モ亦屬
 ス本病ヲ誘起スルコト多ク成人ニ於テ本

病ノニ圖之ト云

利氣性ノ瓦斯及毒氣高ク燃焼シクハ、
アムモニア等ヲ吸ハルニ由リテ本病ヲ惹スルコトアリ、
又異物殊ニ臭カシクハ氣管ニ侵入スルニ由リテ
氣管枝ヲ刺激シテ起ルガ如ク氣管支又肺ヲテ
惹クコトアリ (誤嚥肺炎)

△症候 煙ニシテ急性ト重篤トニ区別
ス、麻痺性肺炎ニ並ニ健忘ニ及スル肺炎ハ
急性トシテ痙攣性肺炎ニ並ニ肺病ノ如ク其
ニ肺支ニ亞急性トシ

診断上所要ナルハ熱ノ關係ニテ本病ノ熱ハ
不整ニシテ長キ弛張アリカク利セズニテ概不徐

々ニ散漫マ

脈搏ハ急ニシテ増加シ一時間百四十以上トナリ
果シニ急ニキハ二五ニ達スルコトアリ呼吸數モ亦
増加シテ一時間六十八十トナルコト達スルコトアリ
他覺的呼吸困難アリ鼻呼吸ヲ以テ胸膈
下部、肋間及心窩ノ吸氣の路汝ラ認ム若シ肺
ノ大部分ニ空氣ヲ失フハハ急ニ震盪感ニ感ス
リ之ニ及ニテハ分泌物ニ由リテ氣管支ニ閉塞セリ
以テハ声音震盪微弱トナル

打診ヲ行フニ濁音ヲ覺ス若シ多量ノ病竈
融合シテ急ニシテ廣大トナレバ數日経テ治セズ
下方より上方ニ及ル線狀ノ濁音部ヲ生ズ線

狀肺井(往)渴(言)大(者)其(入)之(言)數(言)之(者)其(心)
下(下)能(抗)法(行)之(抗)抗(感)感(増)加(之)
聽(鈴)上(微)弱(之)候(必)言(及)捻(髮)言(之)同(之)
有(發)性(水)泡(言)之(氣)受(之)言(之)氣(受)受(之)言(之)
之(之)聽(之)中(唯)聽(鈴)法(之)言(之)本(病)之(認)之(心)

咳(嗽)モ亦(必要)一(飛)候(リ)喘(疾)ハ多(ク)積(滯)積
年(齡)ハ死(亡)數(ト)同(係)リ幼(年)者(程)多(ク)死
之(不)

肺(大)部(之)侵(サ)テ高(熱)浮(吸)病(増)加(若)其
毛(神)微(之)浸(渴)之(者)強(弱)收(不)良(之)
其(他)衰(弱)之(心)小(兒)肺(病)性(尙)健(病)性(性)

小(兒)モ豫(後)不(良)之(症)咳(嗽)性(肺)大(之)症(肺)性(肺)
大(之)モ枝(結)成(ル)之(言)危(險)之(心)

診(断) 唯(推)測(之)言(之)小(兒)若(ク)ハ老(人)之(心)
テ(多)平(旦)又(又)加(各)兒(女)之(肺)下(部)若(ク)ハ脊(骨)柱

ノ(兩)側(之)沿(テ)肺(胞)復(潤)微(即)々(声)音(震)動(強)
盛(濁)音(者)數(言)捻(髮)之(音)氣(受)受(之)言(之)氣(受)受(之)
候(也)有(言)之(心)言(之)見(者)本(病)診(断)下(之)心

チ(一)々(之)也(心)說(之)依(心)多(者)其(言)之(心)作(厚)概(之)三
十九(之)之(起)之(下)之(心)体(温)更(上)昇(之)言(之)數(之)心
多(心)之(氣)受(受)其(心)加(各)兒(女)性(弱)其(言)之(保)其(心)之(言)
之(心)ト(認)之(心)ト(言)之(咳)嗽(性)之(心)痛(之)其(心)且

至他ノ氣受枝カキルトシテハ若ク白クシ及呼吸
弱ク之ノ通ルセキモノハ如冬ノ性勝ルニ疑
テ起ル也

○鑑別診別 血中ノ氣受枝カキルトシテハ
寒易クシテ是モ如ク受枝カキルハ呼吸弱クハ
本氣ノ衰亮クシテハ二十回ノ向ルニ四十ノ向ル
上ノ対候ニシテ体温三千九百乃至四千以上ニ
昇ルテ他ノ若クハ有向ノ温カサ中ハ氣受枝
カキルト看做スヨクモ本氣ノ衰亮クシテ通ル者トク
瘡法 本氣ノ氣受枝カキルニ法ハ若クモシテハ
以テ之ヲ氣受枝カキルハ筋脈ノ瘡法ヲ以
テ治ス

建者ハアマリ度カクハ呼吸弱クシテハ氣
ノ流通ニ法ニ意シテ氣温ヲ平シクシテ(約七十五度)
室氣ヲ温降ルニシテ改メニ種々ノ氣ヲ二
回ニテ之ヲ至ニテ之ヲ冷降ル者ハ微温法
ヲ採用スルニシテハ其ノ氣ノ経路ニ依リテ大ニ
熱法ヲ採用ス、其湯ノ温度ハ四十乃至五
十度ニ至ニシテ一日ニ回乃至四回ニテ之ヲ向ル
シテ之ヲ入浴中冷水ヲ頭部項部及胸部
ニ概シテ之ヲ反射必用ニ由リテ直ニ呼吸機
ヲ強起スルニ胸筋ノ温法ノ肩背ヲ亦效アリ
各秘物 肺病ニ結核ノ如キニ其強クシテ
用フ

各秘物 生命火

第六 格雲布性肺炎

解剖 本病の臨症上及解剖上より之ヲ面考

之ヲ三期ニ區別ス即チ凡ノ如シ

(一)充血期 患部多量ノ血液ヲ含ミ其ノ後

後増大シ重量モ亦此ヲ増カス之ヲ圧スル圧

痕ヲ留ム

(二)変肝期 (甲)赤色変肝期 肺ノ切面

一様ニ赤色ヲ呈シ今ヲ空氣ヲ含ムニ組織ハ破

碎シ易ク切面ニ顆粒状ノ空泡ヲ含ミ其ノ後

切面ニ如ク觀ラズニ故ニ変肝期稱アリ

(乙)灰色変肝期 切面ニ硬ク及顆粒ハ赤

色ニ變肝期ニ異ナラズトモ肺ハ赤色ヲ呈セ

ズシテ淡黄色若クハ灰白色ヲ呈シ各顆粒増

大ニ且各顆粒ノ境界明クナラズニ故ク多ク

多ク解脫シ切面ニ其細小ノ氣管支ヲ見ヨラ

鐵維チ凝固物ヲ取出シ好ム

(三)膿様浸潤期 若クハ膿様融解期 肺ノ顆粒

消失シ肺腔ニ積存膿様ノ液ヲ以テ覆ヒ恰モ肺

腔内空ノ融解スルニキ觀ラレテ溶解シテ滲

出物ノ一部ニ吐出セリ其大部ニ急ク速ク

淋巴管ニ依リ吸收セリ

本病ノ加害見性肺病ニ及ビ其病變機

ニ及ビテ大部ニ變化スルニ以テ之ニ大抵性

肺病ノ補アリ之ニ水深部(肺病ニ近接スル部)

ニ及ニ成之ヲ中心性肺炎トシテ肋膜及氣管枝
腫ニテ多クハノ病多クアリ
本病ハ左肺多ク右肺ニ多ク見テ、左葉ニ付サ
ク多ク右葉ハ右下葉、左葉ニ付、右葉上葉
ナシトシテ、左葉ノ病多ク

原因 フレドリック、肺炎球菌（肺炎球菌）

ニテ其形、柳多ク、臙状ニテ膠囊ヲ被リ、多クハ二
個乃至四個或ハ高其以上ノ球菌（一葉内ニ遊ル）
アリテ色モ黄ラシク、透明ニシテ、中央ニ濃色シク
シテ、其染色標モハ濃色シク、菌体ノ周圍ニ深
色シク、輪環ノ圍繞セラレ見ル之ヲゲンチナチア
ニラシ水ニテ染色シテ、ニグラムチカシラシテ、處

理スルモ、脱皮スル此肺炎球菌、最も多ク、
肺炎ニ於テ見ル、多クハ其モ病發生ノ原因
ナシモノナク、一勻端シトス、

本病ハ三月乃至五月ニ於テ夏期ニハ少シ

經過概要 卒然惡寒、戦慄ヲ以テ、發病シテ

テ、熱、其ノ呼吸數及脈數増カシ、發熱ハ漸ク、
速者モ甚キ倦怠、頭痛及口渴ヲ訴ヘ、次テ胸痛
及呼吸困難ヲ、咳、痰、漸ク、劇トシテ、
ハ、咳、痰、ナキモ、發病ノ日ニハ、既ニ概シク、
咳、痰、ハ、粘稠ニシテ、鮮紅シキ、
ハ、特有ノ結核、色、
初期ニ於テ、生理學的、
不、明、カ、サ、レ、ド、折

診音ハ服胞腔ハ減少ニ為、虚性ニシテ之高ク、
鼓音ヲ以テ、呼吸音ハ微弱ナリ、
音ヲ聴クニ、其病ノ所ニ於テ、屢ニ既ニ濁音、
氣管收音、氣管支ノ音、亦音震、
管ノ膨満、此候ヲ其ノ所ニ於テ、
纏ニ善ニ長ク者、亦五日、亦七、或ハ亦九、
ニリテ、
ア、此ノ和ニ申テ、
音ハ濁性ヲ減シテ、
音トナリ、
枝ノ音、亦音ノ震、
大ノ水泡音ヲ其ノ檢、

ニ復ス

症候各論

病ノ開始 多クハ卒然其病シ、其初微、
虚音及呼吸ナリ

体温ハ三十九度乃至四十度ニ昇リ、
而テ稽留ニ數日ニシテ、
此ノ和ハ多クハ其ノ數日ニ起リ、
熱ノ和ハ多クハ、
ニ直ニ和ヲ脱ス、
又和ノ直ニ、
危險ニシテ、
乱ニ和ヲ多クハ、

假性分科

分科前擾乱症

四九

此胸痛ハ呼吸を止一病後ニシテ下至肺太ニ多ク
呼吸困難ニ至ス属理シ其原因種々ナリ
咳嗽ハ肺トモニ存シ肺ニ至多肺太ニ多ク上
至肺太ニ少ナリ
哮喘ハ診断上是ニ必要ナル病候ニシテ此特
有ノ哮喘ハ此ニ依リテ確診ヲ下シ得ル
殊ニ中心肺太ニアリテ他ニ著ク然有ノ理ナ
シ病候ニキリテ哮喘ハ診断上ニ多ク價値アリ
初期哮喘ハ粘液ニ富ミ破カ様ニシテ粘
稠ニ成ルニ至ルニ其血液ニ多ク哮喘ハ
混和シ之ガ為ニ哮喘ハ鐵線毛ラリテ、喘

痰ノ量ハ倍々少ク

哮喘中ニ多量ナル枝凝圓物ヲ含ム即チ細小
氣管支ノ型像ニシテ哮喘ヲ中ニ震盪スル
中凝解スルカ塊トシ、細氣管支ノ支ニ至
ジテ肉又状ラシク認ム此凝塊ハ肺太ノ變
肝期即チ多ク其病状三日ニ現シ、牙セム
ニ由リテ得ル

哮喘ハ陰核ニ、内形細胞、白血球、肺胞
及氣管支ノ上皮等ニ屬スルニテモ、肺太
球菌等ニフリードレシテモ、ブライモバクテリア
等

○理学的症候 (一) 視診 患部呼吸運動感

(一) 解診 淺部部人言言震動時令上
(二) 打診 元血期に於て打診音虚トナリ、輕
易ナル鼓音ヲ得テ、變肝期に渴音ヲ得
解打診法ヲ行フニ、抵抗ハ感ハ増カシ、認ム
期ニ於テハ、鼓音トナリ、次ケル熱ニ復ス
(三) 聴診 元血期に於テ、捻髪音ヲ聴キ、呼吸
延長ヲ認ムルナリ、變肝期に於テハ、呼吸
短キ、呼吸音ヲ聴キ、氣管支氣管ニ沿ヒ、呼吸
音トナリ、捻髪音ヲ聴ク
脈搏ハ、体温ニ一致シテ、頻數トナリ、再考一ニ時
間ニ百ノ心拍ニ下ルニ至ル、大人ニシテ百ノ心拍ニ
達スル者ハ、危險シ、脈搏ハ、不整ナルハ、病勢不

良ニ徴チ、無シ、和シハ、脈搏下降ス
心脈ハ、多少増大ス、終ニ輕キ收縮期の終音ヲ聴キ
又疾駆調ニテ、ラ限ラズ、是ヲ「系」トスルハ、心脈衰
弱ノ前徴ナリ、血液ニ又變化ヲ来シ、赤血球減少
シ、白血球増加ス
神経系ニ於テ、頭痛、不眠、痲痺、又、嗜睡、譫語
羊子ヲ示シ、是ヲ「系」トスルハ、性、白血ヲ来ス
尿、熱性尿、性狀ヲ現シ、其量減少シ、屢ニ
蛋白質ハ、痕跡ヲ認ム
消化器症狀 舌苔ヲ帯ヒ、食慾缺損シ、屢
嘔吐ス、口渴アリ、便ハ、多クハ、秘結ス
腫ハ、多少膨大ス

副行疹

皮膚に於て毒を帯びて起る疹状の副行疹は三日に
多し之を次ぐに五日、十日、乃至二十日と云
ふ最とも之を数に部位の口唇等

患者は若し疹に仰臥し或は患側を臥す

肺炎に纏る中ニ他病を併発する事多し他病

経過中ニ肺を令保する事アリ

経過 一日及び三週日より肺を一日乃至二日ニ

テ清教するモノヲ一日性肺をト云フ性局部ニ肺

を病状アリテ作候ノ昇下せし者多し之ヲ魚鱗

性肺をト稱ス如ク短時日内ニ纏るモノハ肺

をト云フモノトモハ頓挫性肺をト云フ之

ニ反シテ肺を纏るモノトモハ彌漫性肺

日性
無熱性
頓挫性
遷延性

進行性
游走性
再發性

をト稱ス又其病の漸次増進シテ徐々ニ全肺ノ
大部分ヲ侵襲スルヲ進行性肺をト云フ順次
數多クテ侵襲スルヲ遊走性肺をト云フ一旦
清教シテ病状ノ更ニ再發スルヲ再發性肺
をト稱ス

豫後 年齢ハ肺を侵襲後ニ關係アリ

壯年者ハ豫後良好ニシテ老人及小兒ハ要ニ注意ス

トスル女子ハ男子ヨリモ死亡率多キガ如シ

左肺ノ病位ニ亦豫後ニ關係アリ、右肺ノ侵ハ

レシ者ハ左肺ノ侵ハシムル者ヨリモ死亡率稍多

クトモ其ノ肺中、下葉ノ肺をヨリモ豫後好

良ナリ是レ上葉ノ肺を侵ハスモノハ其レノ身體ノ

衰弱を来し且屢々膿瘍、壞疽、結核を發す由ル
一週間以上、高熱、咳嗽、痰、好くは、咳、強キ胸痛、
百二十回以上、脈搏、豫後、不良、徴也
所謂、カシ性肺炎、コレヲ、肺、之、重キ、全、身、症、候、ヲ
視、シ、宜、扶、斯、如、キ、觀、ヲ、マ、シ、見、モ、モ、不、豫、後、
不良、也

氣行、疾、ヲ、甚、ス、モ、ハ、善、徴、也
多、ク、本、病、死、因、ト、ス、モ、人、肺、水、腫、及、心、而、衰弱、
診断 固、有、熱、經、之、呼吸、困難、胸痛、咳嗽、
鋪、色、痰、之、コレ、也、肺、炎、肺、菌、並、ニ、各、期、之、致、
不、胸、廓、埋、没、的、症、候、完、備、ス、ル、本、病、之、診斷、
困難、ナ、ス、カ、ト、見、老、人、に、病、者、及、ニ、續、其、性、

肺、之、症、ヲ、各、異、リ、ス、ル、症、候、ヲ、見、且、ツ、其、ノ、症、候、
輕、微、ニ、テ、診斷、困難、ナ、リ、

鑑、別、ヲ、爲、ス、一、ノ、疾、患、ノ、主、ト、ス、モ、人、加、善、也、性、肺、炎、
及、肺、中、性、肋、膜炎、ニ、テ、急、性、氣、管、支、炎、カ、其、身、
中、中、性、便、塞、**肋、膜炎**、**腸、管、攣、攣**、**急、性、氣、管、支、炎**、
肋、結、核、**敗、血、性、肺炎**、**流、行、性、感冒**、**肺、水、腫**、
肺、水、腫、**肺、結、核**、**也**

療法 病、室、に、居、爾、之、ヲ、閉、鎖、シ、テ、換、ジ、**沙、**
露、**ニ、テ、稀、シ、冷、涼、シ、宜、キ、中、ニ、以、テ、之、**
若、シ、咳、ノ、咳、止、メ、困難、ト、ス、水、蒸、氣、ヲ、蒸、氣、シ、テ、
室、内、に、充、テ、之、ヲ、以、テ、之、
酒、精、亦、似、之、ハ、葡萄酒、ポルト酒、シヤパン酒、
ハ、亦、宜、シ、

(月) 瘰癧

鶏卵酒若くは卵ブツラシデーヲ用フ

解熱高熱ハ固チ使用ス、血中ニ移行シタル細菌

毒物ヲサシテ善ナラシムル目的ニテ、キチ、ネ、ヲ用フル

フアリ、患部ニ氷嚢ヲ貼ス

肺ガニ於テハ急激ニ心臓衰弱スルコトヲ豫防

シ若シ既ニ此症状ヲ現シタルハ心臓ヲ強クセ

ルガ花ニカケ、此場合ニキチ、ネ、ヲ用フ

咳嗽及胸痛ニ在時亦用ス

第七 肺臓壊死

解剖及原因 肺組織ニ腐敗性ヲ解テ、シ

ネツクヤハ之ヲ限局性ト蔓延性トニ種ニ區別シ

タリ 甲ハ肺内豆大乃至林檎大ニシテ病竈數多

クシテ、劃然タル境界ヲ有シテ全肺ニ亘ル

壞疽部、而シテ汚穢黒緑色壞疽病ヲ生シ其

部組織僅薄シテ健肺ヲ以テ緻密硬固トナリ其

觀格モ腐蝕加重ニ由リテ生じ、心外皮ハ結痂、

ヤシクシテ、其病皮ノ周圍ニハ劃然タル

痕ヲ著シ壞疽部ハ黒色緑色或ハ褐色ヲ呈

シ、此等出ニ由リテ、肺ニ空洞ヲ生シ

トスルコトハ限局性肺壊死也、是等ニ由リテ

シ、空室(4)氣管枝(5)肺組織ノ破壊ニ由リテ成シタル

凡、空洞ナリトスル、其他(4)肺外傷(5)肺ノ炎症(6)

腸管扶助(7)の麻痺瘰癧等、傳染病並ニ種

尿管ニモ壞疽ヲ生ズルコトアリトス

肺壞死ハ細菌ニ由リテ起ルモノナリ
確定セバ何
シテ微菌ヲ以テ本病ノ本体ト看做スニキカハ尙未ダ詳
ナリ

症候 本病ニ要スル症候 嗜痰ノ性質ニシテ
痰ニ臭臭ヲ放シテ肺ノ壞死片ヲ含ム

嗜痰ニ要スルモノニナリ、呼吸ニモ亦同様ノ臭
氣ヲ放シテ痰ニ其臭氣漸次減少ス若シ病
失スレバ損付スル再ビ臭氣ヲ放ス反應ハ酸性
ナリ嗜痰ノ量ハ時トシテハ多量ニシテ満口
状ニ嗜痰スルアリ

嗜痰ヲ放シテ痰ニ三層ト云フ上層ハ泡沫状ニ
シテ粘滲又ハ膿塊ヲ混ジ中層ハ潤滑膠状ニ

肺壞死片

シテ其量ハ多ク下層ハ黄色不透明之顆粒状
物ヲ含ム中ニ肺ノ壞死片アリ

肺ノ壞死片ハ灰白色又ハ黑色ニシテ大ナル
瓜形大塊ニシテ之ヲ水中ニ投スルハ浮遊シ其他
嗜痰ノ下層ニ檢シ(細菌性氣管枝様トアリ之
ヲ鏡檢スルニ脂肪針黒色系、脂肪滴、赤血球
及諸種細菌(肺胞)プロトコクス等ノ存在スルヲ
見ル

胸廓ノ變化ハ甚ダ延性壞死ニ於テハ胸浸潤症
候ヲ呈シ限局性壞死ニ於テハ空洞病状高ク
音震動ハ弱シ、鼓音、破壺音、氣管音、呼吸音
患者多ク患肺ニ臥ス病室下ニシテハ患者高

- (其他) 氣管枝擴張
- (四) 膿胸
- (五) 肺癆
- (六) 單純性臭

位ヲ望ムトシテ其ノ位ニ在リテハ
 熱ハ其ノ在リテハ他ニ在リテハ
 弱肺迅速ニ脱力ヲ為ス

診断 本病ニ微臭臭汚穢ノ咳痰壞死
 片細菌性氣管支炎ニ其ノ脱力ヲ為ス

鑑別診断 (一) 有效性氣管支炎ニ其ノ咳痰
 臭氣ヲ放シ、咳痰ニ管ニ在リテ、檢子ヲ有

シテ、肺壞死ニ同シキモ、肺壞死ハ胸膈ニ埋入
 的ニ候アリ、且肺ノ壞死片又ハ彈力纖維ヲ認ム

(二) 肺膿瘍 (一) 膿性物トシテ、鑑別

△肺膿瘍

△肺壞疽

(一) 痰ノ性質 膿様ニシテ臭 (一) 惡臭ヲ放ツ
 臭ナシ

(二) 彈力纖維 咳痰中ニ彈 (二) 肺膿瘍ニ見ル
 カ纖維ヲ有ス

(三) 細菌性氣管支炎ニ (三) 存ス
 缺ク

(四) マトリヤノ結晶多ク (四) 多クアリ
 (五) 肺液ニマトリヤク
 缺ク (五) 存ス

経過 速ニ経過シ一周日ニシテ死ニ至ル或ハ延長シ

豫後 概テ不良シ

治療 咳止メテ患者ノ脱力ヲ防キ、腐敗ヲ抑止ス

○其他ノ吸入薬ハ
 ナモトル、クシホルム
 等也

○吸入ノ吸入器ハ
 吸入器又ハノール
 等也又ハ吸入器
 用ヒ、消毒若クハ
 蒸餾水ヲ用テ洗
 ハセシム

ラ要ス、病室ハ大キクシテ空氣ノ流通佳シク
 又ハ臭氣ヲ減スルニ熱湯ヲ容シタル中ニレビ
 又ハクシオンノトシテ殺シテモ善キヤシク
 呼吸器ニカノカスルニテ或ハ五ノ五ノ
 此ガノ酸加里後ラ之ニ疼ヲ生サセム
 ラ要ス

運者ハ其ノ病ノ移ルニ著シ
 シルニ生ハ直ニ趨キ
 肺ノ病ヲ防止スルニ
 用セシム

肺ノ病ヲ防止スルニ
 用セシム

第八 肺癆 (肺結核)

△原因

病原ハ結核菌ナリ 而シテ本症ニハ其病原
 菌ハ結核菌外他ノ細菌ヲ有シ所謂混合傳染ヲ起ス
 結核菌ノ人体ニ侵入スル経路

- 結核ノ傳染
- (一) 傳染的経路
 胎盤ヨリスル
 結核ハ結核菌ヲ
 胎盤ヨリスル
- (二) 腸傳染
 小兒ニ多シ
 小兒ニ多シ
- (三) 皮膚及口粘膜
 結核菌ノ侵入
- (四) 淋巴腺
 結核菌ノ侵入
- (五) 吸入ニ由ル傳染
 鼻・口腔・肺
 結核菌ノ侵入

- (一) 空氣ト共ニ吸セラル
- (二) 結核菌ノ口ヨリ口ニ傳ル
- (三) 結核菌ヲ含ムル食物ノ摂取ニ由リテ本病ヲ起ス
- (四) 衣服・寝具及飲食具等ヨリ傳染ス
- (五) 皮膚ノ損傷部ヨリ傳染ス
- (六) 結核患者ノ生殖器ニ結核ヲ有セラルニ拘テ、精液中ニ
 結核菌ヲ証明スルアリ、又ハ尿生殖器ノ結核ニ罹ル婦
 人ノ媾接ニ由リテ、男子ニ結核ヲ傳ル

市吉亥

五七

（月令）

（七）往々初生児ニ肺結核ヲ認め下ア（子宮内傳染）

（以上ノ如キ結核ヲ感受スルキ原因ニ接スルモ数多ク人ノ尚結

核ニ罹ルルヲ免ルハ畢竟結核菌ノ发育極ク緩徐ナ

ル為ニシテ本菌ハタトモ身体内ニ侵入スルモ久シク体内ニ固

着セズシテ多クニ再び身体ヨリ排除サルモノトス、セド

常ニ病毒ニ接スルハ遂ニ感受スルヲ免レザル（シ）

人ニ由リテ結核菌ノ身体内ニ固着シ发育シ易キ種特

異ニ性質ヲ有スルアリ之ヲ結核ノ素因ト云フ

誘因

○結核ノ发生ニ関係スル誘因

（一）体格 體質虚弱ナル者ハ殊ニ結核ニ罹リ易シ長身

纖弱、皮膚蒼白ニシテ胸廓長狭ナル體質ヲ瘵瘵質

ト稱ス（古ヨリ結核ハ遺傳スルモノト看做セラル、セド近來

○肺結核ノ傳染源

（一）人ヨリ人ニ

（二）牛肉及ヒ肉ヨリ

（三）遺傳

（四）夫婦間ノ傳染

（五）家族間ノ傳染（一未だ

（六）塵埃ノ傳染

（七）職業上ノ傳染（印刷

（八）且ツ暗咳カ有注

ハ肺癆ハ決シテ遺傳スルモノトシテ唯結核ニ罹リ易キ素

質ヲ遺傳スルモノトシテ説ニ傾ケリ

（二）年齢 ハ結核ニ罹ル素因ニ関係アリ殊ニ肺結核ハ六

歳及ヒ三十歳ノ者ニ甚スルノ最多シ

（三）外界ノ關係 ハ本病ノ发生ニ影響アリ就中空氣

光線、住居ノ食物及運動等ハ最も多ク關係ヲ有ス

（一）新鮮ナル空氣ノ缺乏

（二）日光ノ缺乏

（三）食物ノ養分又ハ量ノ不足

（四）運動ノ不足

（五）身体ノ抵抗力減弱セル原因 即チ重病（貧血、

糖尿病、マラリア）妊娠、産褥、貧困、憂愁、慢性酒

以看護他厚

看護婦、結核、
糖、多ク死ス

者、三分ノ一、實ニ
在病ニ因リテ

是レ肺ニ在ル者
ニヨリ傳染スルカ如ク

キ觀アルモ、
新ニ入ル者、
多クニ中、
其年數カ短キ

結核ヲ發生スル
時期、
潜伏セシ結核カ
職務ノ力カ
ニ依リテ、
其年數タルベシ

ニ對シテ、
結核カ、
好カ

精中毒等ハ結核傳染ノ危険ヲ増ス

(五) 肺及肋膜ノ諸疾患

(六) 外傷

(七) 咯血等

解剖

肺ノ結核傳染ハ、
吸氣、
血管、
淋巴管、
三路

ヨリス。吸氣ニ由リテ傳染ス。細氣管枝若クハ肺胞侵襲セシ、血管若クハ淋巴管ヨリテ傳染ス。細氣管枝近傍ニ於テハ、血管若クハ淋巴管壁ニ結核性炎症ヲ惹ス。

結核菌ノ存在セル肺ノ部分ニ炎症ヲ起シ、細胞繁殖及堆積セルヲ見ル。是即チ結核性新生物ナリ。組織細胞及上皮細胞ハ、菌ノ作用ニ由リテ増殖シ、上皮細胞

ハ本症發生ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリトス。

(一) 肺抗細胞、
若クハ、
結核性新生物ハ、
中央部ヨリテ、
乾酪變性ヲ始メ、
漸次外方ニ及ブ。此病機結果ハ、
所謂粟粒結核ニシテ、
初メハ透明灰白色ナリ。後ニ乾酪變性ハ、
為ニ白色又ハ黃色トシ、
此新生物組織ハ遂ニ崩壊シ、
其大部分ハ、
咯痰ト共ニ咯出セシ、
其部ニ空洞ヲ形成ス。結核性空洞。

肺ニ及ル結核病變區別

一 粟粒結核

(二) 結核性氣管枝及結核性氣管枝周圍炎、
氣管

結核病變ノ中、
漸次進ニテ、
其周圍ニ、
其年數タルベシ

結核性新生物ハ、
中央部ヨリテ、
乾酪變性ヲ始メ、
漸次外方ニ及ブ。此病機結果ハ、
所謂粟粒結核ニシテ、
初メハ透明灰白色ナリ。後ニ乾酪變性ハ、
為ニ白色又ハ黃色トシ、
此新生物組織ハ遂ニ崩壊シ、
其大部分ハ、
咯痰ト共ニ咯出セシ、
其部ニ空洞ヲ形成ス。結核性空洞。

肺ニ及ル結核病變區別

一 粟粒結核

(二) 結核性氣管枝及結核性氣管枝周圍炎、
氣管

結核病變ノ中、
漸次進ニテ、
其周圍ニ、
其年數タルベシ

結核性新生物ハ、
中央部ヨリテ、
乾酪變性ヲ始メ、
漸次外方ニ及ブ。此病機結果ハ、
所謂粟粒結核ニシテ、
初メハ透明灰白色ナリ。後ニ乾酪變性ハ、
為ニ白色又ハ黃色トシ、
此新生物組織ハ遂ニ崩壊シ、
其大部分ハ、
咯痰ト共ニ咯出セシ、
其部ニ空洞ヲ形成ス。結核性空洞。

肺ニ及ル結核病變區別

一 粟粒結核

(二) 結核性氣管枝及結核性氣管枝周圍炎、
氣管

結核病變ノ中、
漸次進ニテ、
其周圍ニ、
其年數タルベシ

結核性新生物ハ、
中央部ヨリテ、
乾酪變性ヲ始メ、
漸次外方ニ及ブ。此病機結果ハ、
所謂粟粒結核ニシテ、
初メハ透明灰白色ナリ。後ニ乾酪變性ハ、
為ニ白色又ハ黃色トシ、
此新生物組織ハ遂ニ崩壊シ、
其大部分ハ、
咯痰ト共ニ咯出セシ、
其部ニ空洞ヲ形成ス。結核性空洞。

肺ニ及ル結核病變區別

一 粟粒結核

(二) 結核性氣管枝及結核性氣管枝周圍炎、
氣管

之氣管枝炎より變シテ氣管枝周囲炎トシ

(三) 細氣管枝ニ結核性病變ニ付ハ病毒ノ肺胞ニ侵入
スル為ニ結核性氣管枝肺炎ト云フ此病竈ハ帶灰赤
色灰色若クハ帶灰黃色ヲ呈ス(二)ト(三)トノ病變進行
ニ付テ肺空洞ヲ生ス

以上記載シタル破壊性ノ病變ニ付或ハ之ニ反シテ結核
ハ限畫及治癒ヲ轉帰スル此種ノ肺ノ變性ヲ呈スル下リ
慢性肺間質炎之ニ屬ス

一般臨床的症候

肺結核ノ起始後徐々ニ以テ
往々之ヲ看過スルヲアリ此期ニ於テ注目スベキ患者ニ甚
シク羸瘦脱カスルヲナリ
患者ヲ診スルニ其(一)胸廓ノ構造不良ニシテ所謂麻

痺胸ヲ呈スルコト多シ打診上異常ヲ認メザルヲアリ或ハ(二)

肺尖ニ於ケル打診音短トナリ或ハ(三)鼓性濁音ヲ呈スルコト

アリ(四)呼吸ハ銳利トナリ(五)吸氣ハ微弱若クハ不整ナリ

往々(六)僅微ノ囉聲ヲ聞クコトアリ此時期ニ於テ病勢久シ

ク停滞或ハ幸ニ治癒スルコトアリサレトモハ早晚(七)咳嗽

(八)喀痰ヲ起シ喀痰中ニ結核菌及彈力纖維ヲ含ミ常

ニ(九)發熱アリ(十)渴音部著明トナリ(十一)肺胞音ハ氣管

枝音ニ變シ(十二)有他種性水泡音ヲ呈シ(十三)時々咯血ス

(十四)次テ空洞症ノ徵候ヲ呈シ(十五)患者漸次衰弱シ且他

臟器(腸及喉頭等)ニモ結核ヲ發シ遂ニ死ニ歸スルニ至ル

経過

其ハ區々ナリ其速カナルヲ開花癆(疾驟
性肺癆)ト云フ之ニ反シテ経過ハ非常ニ緩慢ナルヲ硬變

性肺癆ト云フ

各症候

ヲ以テ云ク

患者多シハ所謂癆瘵骨ニシテ身体細長、骨骼
モ亦細長ニシテ、筋肉羸瘦シ、皮下脂肪乏シシ顔面
ハ蒼白トシ皮膚血管容易ニ充血シ以テ潮紅
ルナリ頬部ニ限畫性潮紅ラ呈シ(消耗性潮紅)
眼瞼美ニシテ巩膜帯青白色ヲ呈シ頸部細長ナ
リ(鵝首)

胸廓狭長ニシテ鎖骨ノ上下部陥没シ肋間斜走
ルヲ以テ上腹角鋭角ヲナシハ肋骨角鋭角ニシテ肩胛
骨ノ内縁著シ胸廓背面ヨリ離開シテ恰モ鳥

翼ノ状ヲ為ス(翼状肩胛)胸廓呼吸運動減少
シ吸氣時モ尚呼吸時ニ於テ位置ヲ為ス(常吸氣
胸)胸廓周囲ハ身長ノ半數ヨリモ小ナリ呼吸運動
差僅少ニシテ三乃至五仙迷ヲ超スナシ

胸廓ノ理学的症候

- (一) 視診 患者多シハ麻痺胸ヲ有シ左右ヲ比較スニ
患部狭小トナリ健康側ニ比スハ呼吸運動僅微ナリ
- (二) 觸診 一般ニ視診ノ成績ヲ証明ス且測帶ニ由リテ
胸廓周囲及運動ハ差ヲ精密ニ認ムルヲ得ニシ
- 透照若シハ空洞ヲ生シシ部ニ於テ音震動強盛ナリ
- (三) 打診 患部ハ空氣ヲ含ムトナキヲ以テ打診ニ短ナ
リ浸潤部増大ニハ濁音ヲ放チ多數ノ小病竈ニ由リテ

洞在シタル組織を圧迫セシメ弛緩シタルハ鼓音ヲ發ス其他
肺ニ空洞ヲ生シタルハ鼓音若クハ往々破壺音ヲ發ス
ウイトリケト氏響音變換及ガハルト氏響音變換ヲ現ス
肺結核好占部ハ肺炎ナリ

四聽診 ハ理學的診法中最モ必要ナリ、呼吸音ハ
微弱且不整トナリ、往々斷續性呼吸音ヲ發ス、呼吸ハ
延長シ且銳利トナリ、組織ニ浸潤アルルハ氣管枝音ヲ
聴取シ更ニ病機進ミテ空洞ヲ形成スルニ至ルハ氣管枝
音及響子呼吸音、氣管枝音ヲ發ス

常ニ聞ル肺炎囉聲ハ初期肺病ハ診斷ヲ下スニ至ル價
値アリ囉聲ハ初メニ唯深呼吸及咳嗽時ニハ聴取スルモ后
ニ至ルハ呼吸毎ニ聴取シ得シ囉聲ハ初メ小ナルモ後ニ大ト

ナリ、且有響音性トシ

以上ノ症状ハ病期ノ早晚ニ應シテ大ニ差異アレシ之ヲ尤ノ

三期ニ概別スルヲ得シ

(甲) 初期肺病 概テ病徵ヲ肺炎殊ニ其右側ニ現ス
所謂肺炎加急見是レナリ

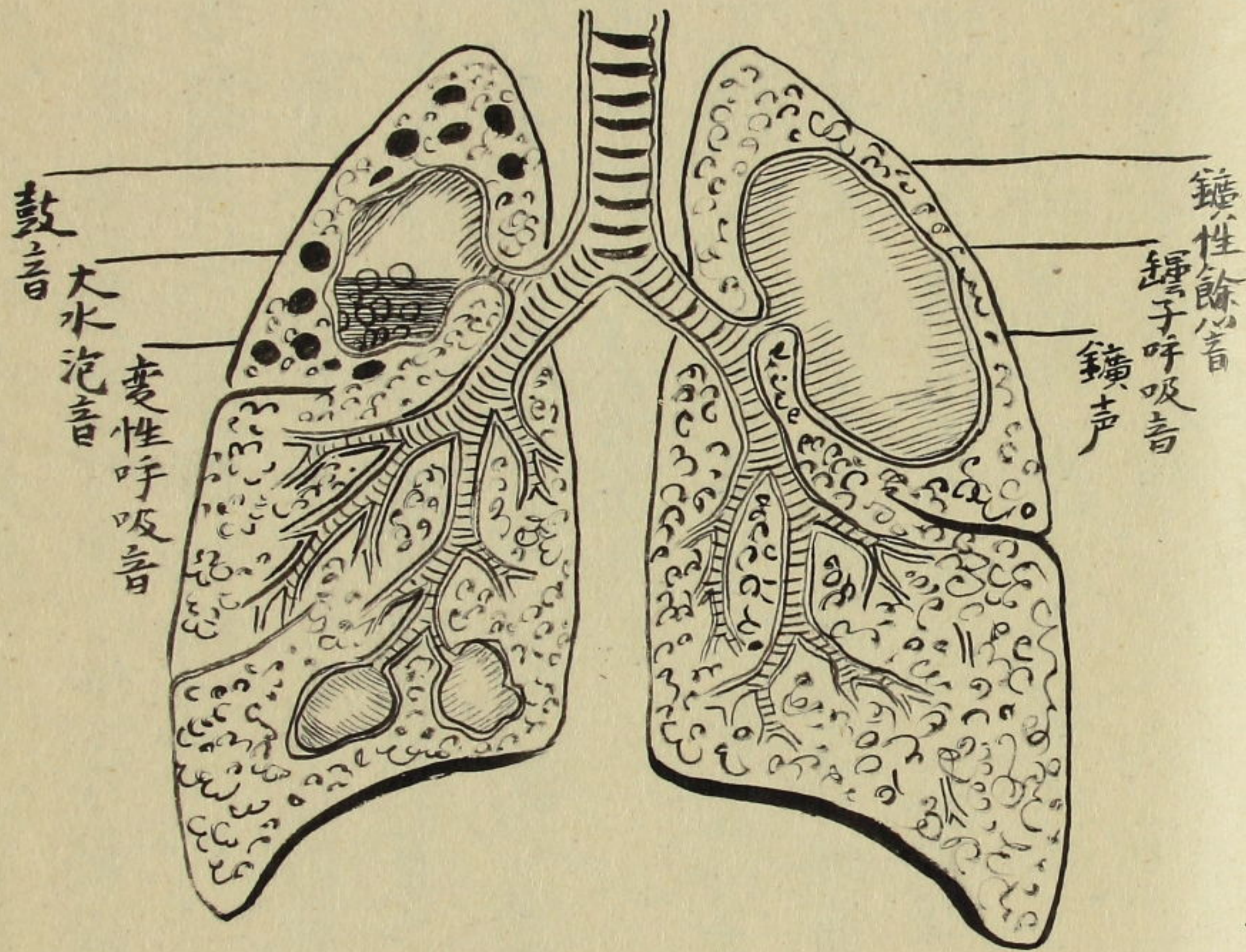
(乙) 確定期肺病 病機進ミテ結核性浸潤ヲ来ス
最早他病ト誤ルナシ

(丙) 完成期肺病 浸潤部崩潰シテ空洞ヲ形成ス
呼吸困難 ハ比較的著シカラスセト末期ニハ呼吸困

難缺如ス下ナシ 本病ニ肋膜炎若クハ粟粒結核ヲ併
發スルハ呼吸困難ヲ發ス 本病患者ハ急ニ疼痛ヲ以テ
起ル重キ呼吸困難ヲ發シタルハ氣胸ニ罹リタルモノト推

諸種空、洞

(氏、タ、ス、コ、ダ)



降ニテハ負銭状、
 疼ヲ呈ス、
 屢々咳疼中ニ
 血液ヲ混ズルコ
 トアリ、輕微咳
 血ハ顧慮スルニ
 ラカシモ時トシテ大
 嗜血ノ先駆タル
 コアリ
 嗜血ニ初期咳
 血ト空洞嗜血
 トニ種アリ

測スルニ
 疼痛 肺組織自己ハ無感覺ナルヲ以テ深部ニ炎症
 又ハ崩壞アルモ疼痛ヲ呈スルサレド病室電表部ニ存スル
 内ハ肋膜モ亦共ニ侵サルヲ以テ疼痛ヲ呈ス(肋膜炎性
 疼痛) 劇咳アル者往々腹筋肋及横隔膜ノ附着部
 甚シク緊張セシム為ニ疼痛ヲ呈スルコトアリ(筋痛)
 咳嗽 ハ殆ト本病ノ主徴ナリ時トシテハ咳嗽甚クナル
 カ或ハ全ク缺如スルコトナキアラザルモ或ハ劇咳ノ頻度スルモ
 ノアリ殊ニ喉頭及氣管ハ侵サレタル場合ニ然リトス
 嗜痰 痰量ハ患者ニ依リテ大差アリ肺ニ空洞ヲ生ジ
 タルキハ痰ニ量最モ多シク粘ハ膿性又ハ粘液膿性ニシテ
 空氣ニ之ニ水ヲ充テタル唾壺ニ咳出スルキハ底面ニ沈

初期咳血ハ肺癆ノ初期ニ見シ 空洞咳血ハ空洞
内ニ存在ナル肺動脈枝ニ生シタル細小動脈瘤破裂ニ由
テ生ズ 喀痰ノ顯微鏡的検査ヲ行フニ膿球赤血球
肺胞上皮(脂肪化セルモノ)ニエリシ滴他、診斷上頗ル
緊要ナル彈力纖維及結核菌ヲ含ム 喀痰ニ彈力
纖維アルハ肺ノ崩壞部ノ存スル徴ナリトス

○彈力纖維検査法

大約十瓦ノ痰ニ同量ノ十%加里鹼汁ヲ加ヘテ煮沸セルキ、
彈力纖維ヲ除クノ外他、有機性ノ物質ハ全ク溶解スル
然ル後之ニ三四倍量ノ水ヲ加ヘ、尖底硝子器ニ放シタル或
ハステンペワリヤ沈澱器等ニ沈澱セシメテ之ヲ検査スベシ

○結核菌ノ検査法

千代及ネルゼン氏法 深色ニ石炭酸フクミン溶液ヲ用フ
此液久時貯藏シ得ルヲ以テ甚ダ便利ナリ其處方ハ如シ

五%石炭酸水 一〇〇、〇

アルコホル性フクミン飽和溶液 一〇、〇

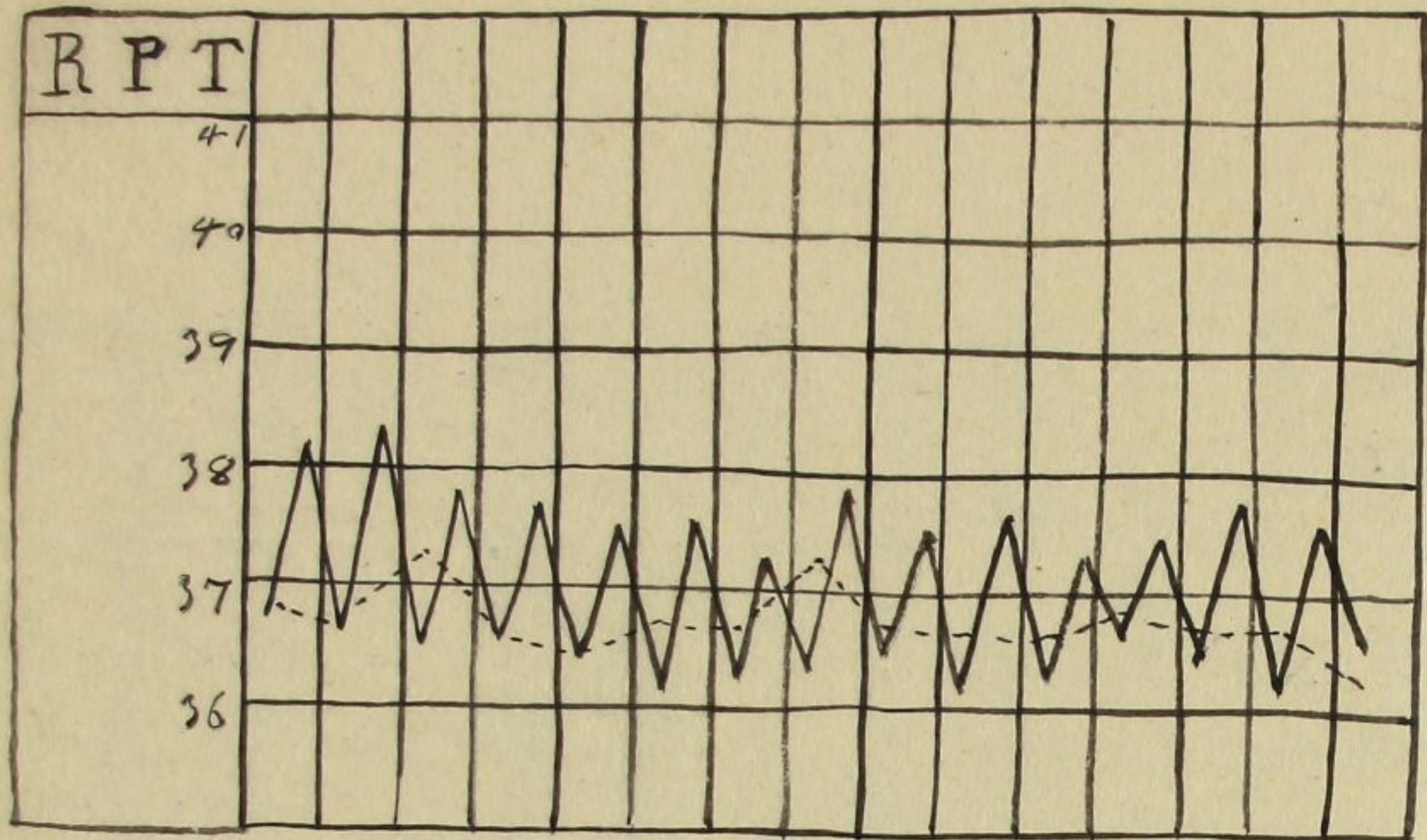
(或ハフクミン若クハ同シキチアチ、グイオレット一、〇ヲ無水酒

精一〇、〇ニ溶解シテ用フ)

之ヲ痰ヲ深色シ、水ヲ以テ洗滌シ、稀硝酸ヲ以テ脱色シ
タル后、更ニ水ニテ洗滌シ、直ニ鏡検査ス。然ルハ結核菌
ノ鮮紅色ヲ呈スルヲ見ル、或ハメチレンブラウニテ複染スルモ
可ナリ

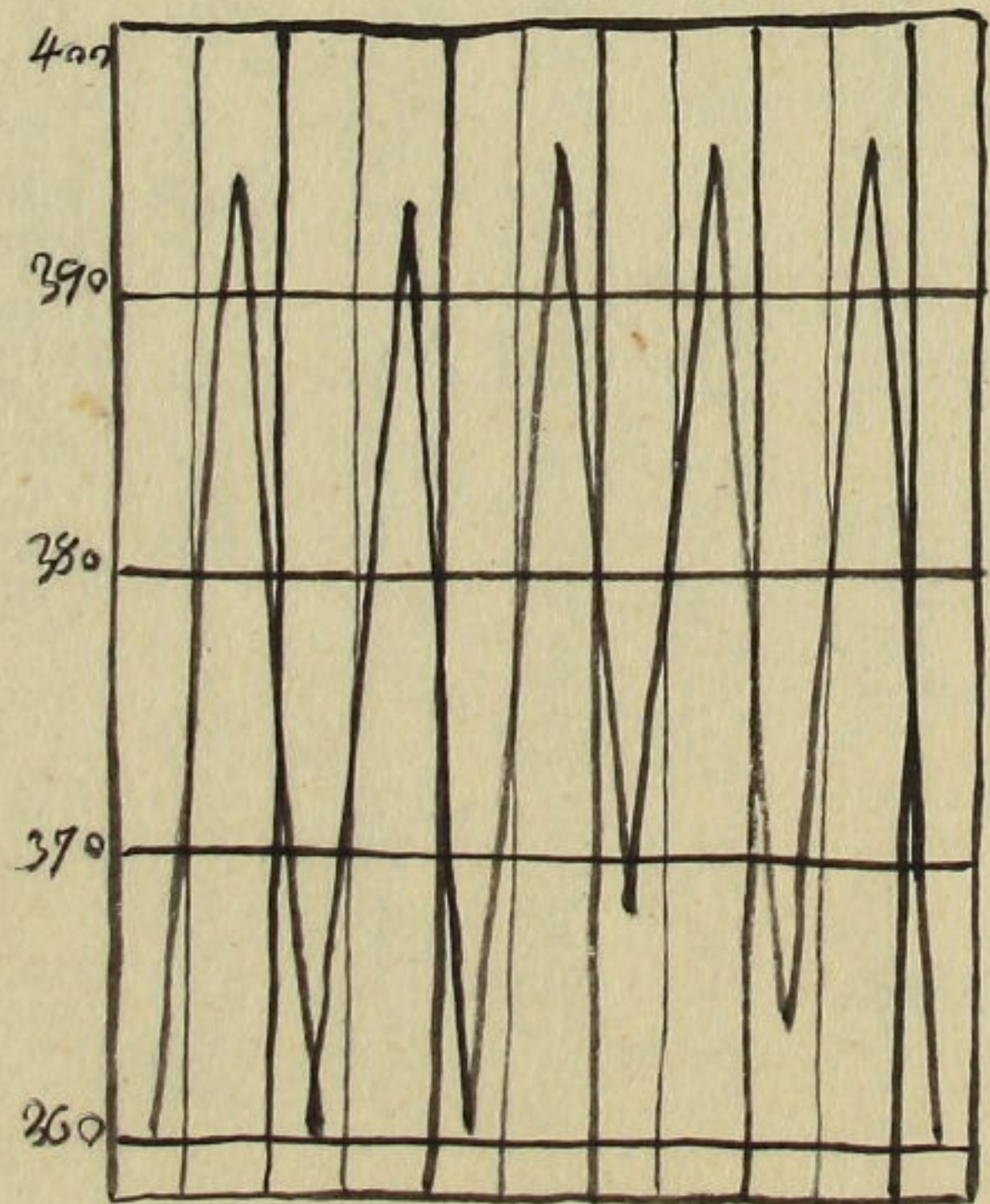
結核菌數ハ甚差異アリ、其概數ヲ知リテ數回検査、
成績ヲ比較セントスルハリツテ、氏ノ法ニ從ヒ、分數ノ方式ヲ用

亞 消 耗 熱



定型ヲ呈スルアリ
 本病経過中、諸變化体温ニ由リ
 テ之ヲ推知シ得ク、合併症及續發
 症ノ發見モ亦熱ニ由リテ指示セラル
 故ニ熱ノ觀察、肺病患者ノ経過ヲ

消 耗 熱



ニ發見シタル菌ノ數ヲ分子視野ノ數ヲ分母トナスニシ、
 タトヘバノ6ト6視野中ニ箇菌ノ存在スル意アリ
 トハ一視野中ニ二十箇菌ノ存在スル意ナリ
熱 肺病患者ハ多クハ發熱シ無熱ニ経過スル者甚
 ク稀ナリ、患者ノ熱無キガ如キ片ニモ**精細**ニ(例之ハ毎二
 時間ニ)換温スルキハ多ク体温ノ上レルヲ見ルニシ
 初期肺病ノ経過善良ナルモハ午ノ前常温、午後ハ
 常ニ三十七度五分乃至八度若クハ夫ヨリモ尚高ク上
 昇シ所謂低熱状態(亞消耗熱)ヲ呈ス
 速ニ経過スル症者ハ肺病ノ末期ニ於テハ**消耗熱**ヲ
 呈ス、即チ午ノ前ハ常温ナレドモ午後ニ至ルバ三十九度
 至四十度ニ達シ、日差三四度ニ及ブトテ或ハ往々反對

判断スルニ最モ確實ナル標準ナリ

疾患者全ク停止シタルハ慢性症ニ於テハ発熱ヤズ、
微熱アルハ病勢ハ緩徐ニ進行スル徴ニシテ消耗熱ハ不良
徴ナリ

脈 脈搏ハ温度ニ比シテ亢進スル些細ノ外因即チ身体

ノ勞働及精神感動ニ由リテモ脈搏亢進スルコト

盜汗 肺病患者ハ遺汗ノ傾アリ、殊ニ夜間ニ最

モ見シキヲ以テ盜汗ト稱ス、盜汗ノ復ルハ理由不明ニ

貧血 肺病患者ノ皮膚ハ汚穢灰白色ニシテ顔

ニ限局性潮紅アリ而シテ脈管運動神經過敏トナルヲ

以テ些細ノ刺戟ニ由リテモ容易ニ皮膚潮紅ス

浮腫 ハ末期ニ於テ之ヲ認ム、殊ニ下痢アル患者ニ於テ

顯著ナリ

羸瘦 肺病患者ハ概テ筋肉及脂肪萎小シ甚シキ

ハ骨立ス

羸瘦ヤリ筋肉ニ於テ往々直接器械的興奮性ハ甚シク

亢進スルヲアリ、例之バ指頭ヲ以テ前胸壁ヲ敲打スルニ

其部收縮シテ高ク隆起ス

膝反射 モ亦亢進ス

精神感應 ハ障礙ヤズ、多ク患者ハ瀕死ノ際迄

全ク神識ニ障礙ヲ来スナシ。結核患者ハ自己ノ疾

患ヲ樂観スルモノナリ

合併症 (一)漿液膜、疾患ハ肋膜炎 (二)氣胸

(三)腹膜炎 (四)腹膜炎

- (一) 喉頭、氣管及咽頭ノ結核
- (二) 腸結核
- (三) 泌尿生殖器系ノ結核
- (四) 結核性脳膜炎
- (五) 狼瘡

△診断

本病ノ初期ニ診断スルハ屢々困難ニシテ、
 練ル医師トモ、容易ニ断定シ下シ難シ、
 貧血、瀰漫性熱、盜汗、輕易ノ咳嗽アリテ、肺炎加
 谷兒ノ症候ヲ呈スルニ至ルバ、其診断困難ナラス。輕易
 ナ乾性肋膜炎、右ニ胸廓ノ局部ニ縮小シタル場合ニ
 肺結核ノ存否ヲ定ムル時トシテハ不可能ナルアリ。此場
 合ニ能ク既往症ヲ調査シ、生活状態ヲ察シ、
 等々注ミ思フルヲ要ス

結核菌ヲ証明スルハ本病確定シ下シ得ルニ、結核菌ノ
 発見セラル、以前ニ於テハ、咳痰中ニ存在スル彈力纖維ヲ
 以テ診断上價値アリトシタリ

若シ顕微鏡下ニ結核菌ヲ發見シ得ザリシハ、動物
 試験ヲ行フベシ

ツルクリン用法

本病ノ診断疑ハシキ場合ハ、ツルクリンノ注射ヲ施シテ
 其反應即チ全身ノ遠和發熱等、有血ヲ檢スルニ
 其使用法ハ、患者ヲ三日間ニ時間毎ニ体温ヲ精査シ置
 キ、
 一、密毛ノツルクリンヲ注射スルハ、八乃至十六時間
 後ニ反應ヲ現スベシ。若シ之ニテ反應ナキハ、一乃至二
 日経テ、亦四日目ニ三密毛ヲ注射シ。更ニ及ニ心ナキヤ

ハ示七日乃至八日、六密尾ヲ注射ス、斯ルモ尚更ニ應ヲ起ササルモノ、結核ニシテ

鑑別診断 (一) 慢性気管支炎加答兒

△慢性気管支炎

- (其他) 加答兒性及格
- (三) 慢性肺炎
- (由) 壞疽性空洞
- (五) 腐敗性気管支炎
- (去) 氣胸
- (七) 間歇熱

(一) 囉声 肺基底於テ聴取ス

(二) 呼吸的变化 缺如ス

(三) 咳血 缺如ス

(四) 食慾及栄養障碍少シ

(五) 年齢 成年若クハ老年多シ

△肺結核

(一) 多クハ肺炎ニ於テ聴取ス

(二) 濁音ヲ發ス

(三) 多クハ存ス

(四) 存ス

(五) 多クハ少壯者ヲ侵ス

- 其他 (二) 萎黃病 (三) 消化不良 (四) 肋膜炎 (五) 氣腫 (六) 氣管支炎 (六) 氣管支擴張 (七) 肺壞死 (八) 肺膿瘍 (九) 肺梅毒 (十) 肺癆腫 (十一) 肺包虫腫 (十二) 肺放線状菌

等ト鑑別ヲ要スルコトアリ

豫後 患者ノ体カニ関スル年齡モ亦關係アリ、

壯年者ニシテ老壯年者ニ佳シ

其他患者ノ多ク富ニ性慾、賢愚、及消化ノ良否ニ又

大ニ豫後ニ關係アリ

熱トキハ疾速ニ中止シ後、微熱アリハ豫後ニ進行

先微 尤モ速ニ進行先微

喉頭、咽頭及胸結核ノ合併ハ豫後不良ニ

併ニ性肋膜炎、氣胸、保虫ニ亦アリシテ結核性胞

腫モノ結核性最モ不良ニ

概シテ云ハ肺結核ノ豫後ハ危陰者ハ不良ニシテ

久結核性病寛治癒スルハ疑ハ容シ

療法

○肺結核ハ此ノ世ヲ(甲)豫防法 之ヲ豫防スルニ(一)結核菌ヲ撲滅スルニ(二)ニ蔓延スル病源ニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル

ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル

○結核菌ヲ撲滅スルニ(一)結核菌ヲ撲滅スルニ(二)ニ蔓延スル病源ニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル

ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル

ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル

○後時ハ一般ニ肺結核
ト者做セシモ
ト者做セシモ
ト者做セシモ

ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル

ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル
ノニシテ(三)人体ニ侵入スルヲ防シカニ法ニ依ラザル

之ヲ其句説ヲ確
理今ニ於テ政列ニ
テ眼ノ衛生念食餌
療法ノ行ルニ至
リ。

(丙) 精神療法

患者ニ心ヲキ病名ヲ知ラシメテ憂愁
ニ陥ラシムル策ノ得タルモニアラザレバ何レノ國ニ於テモ之ニ肺病
加害見、肺加害見、慢性肺炎等ノ名称ヲ付シテ患者
ヲ欺リ例ナリ。セド諸家ノ説ハ寧ロ患者ニ病症ヲ
明言シテ可トス。但精神甚シク過敏ナル者並ニ大ニ衰
弱シタル者ニ對シテ一ト勿論ナリトス。然レテ宗教家ト
シテ見レ如キ虚心平氣ナル者、治療上效果ヲ收メ
ルコト多シ

(丁) 食餌療法

其ニ羸瘦ヲ防グガ為ニ滋養品ヲ與
フルコト要ス、
健康人ガ一日ニ要スル食物ハ尤如シ(アイト及ルブレム氏)
蛋白質 百二十瓦

脂肪

五十瓦

含水炭素

五百瓦

蛋白質一瓦ハ四・一カロリー 脂肪一瓦ハ九・三カロリー
含水炭素一瓦ハ四・一カロリーニ當ル

又一種ノ食物ニ偏シクミテ混合性食物ニ取ルコト要ス、
若シ患者ノ食物ヲ取ルコト能ハザレバ、容量少ク、容易ニ
吸收スル、栄養價大ナル物ヲ採ルコト要ス

(戊) 空氣療法

空氣ハ氣化シタル一ノ食物ト看做
スルコト可ク、滋養品ニ富ムル食物ノ必要ナル如ク新鮮ナル
空氣モ亦其ノ病ニ必要ナリ。
患者ハ成ルコト久シク清潔ナル空氣ヲ呼吸セシムルコト、三方ハ
壁ニテ固クシテ南方ニ射入ル日光十ノ三射入ル、空氣ノ

○患者ノ體ヲ進
シテモ人安舒ク要ス
是レ運動ハ蛋白質
ノ分解ヲ促スルコト
ナリ、極者ニ至ルハ
ナリ。

○ 極世々患者ハ、能ク流通を要ス。若シハ危分ニ於テ患者ヲ静臥セシメ、徐々ニ平地ヲ散歩セシメ、使シテ之ニ劇ノ運動勿シハ疾走、騎行、滑舟、游泳、玉突、ニテ之ヲ、
 △ 本病ハ温暖地ニシテ、寒地ニシテモ、高地ニシテモ、低地ニシテモ、
 △ 而テ其治癒ニ至候ニ由リテ差アリ

能ク流通を要ス。若シハ危分ニ於テ患者ヲ静臥セシメ、徐々ニ平地ヲ散歩セシメ、使シテ之ニ劇ノ運動勿シハ疾走、騎行、滑舟、游泳、玉突、ニテ之ヲ、
 (已) 氣候療法 氣候ハ肺ニ病ニ特ニ大ニ作用アリ

要スルニ本症患者ノ轉地ニ療養ニハ尤ニ條件ヲ具備シ、
 △ 汚土ニテハ、カラス

第一 同ノ御宇、塵埃少キ場所ナルベキ
 第二 衛生法ノ完備セル場所、即チ飲用水良好ニシテ、下水

設備アリ
 第三 日蔭、平地ト坂道トアリテ所々ニ休憩所ノ設アルベキ
 第四 光線ノ十分ナル所及日光風雨ヲ遮リテ、静臥ニ療養ヲ行ヒ得ルコト又ハ庭ヲ有スルベキ

第五 善良ナル食物ヲ得ルベキ

第六 熟練ナル看護スルベキ

第七 電信、郵便、鐵道、電車、交通ニ便スル

第八 熟練ナル醫師アル

特殊異療法

一 藥劑療法 (1) 大蒜

(2) 沃度仿談 外科的結核ニ效ヲ奏スルヲ以テ之ヲ本病ニ試シ、其〇、〇五乃至〇、五ヲ九割トシテ一日ニ用ヒ或ハ

テレジン油ニ加ヘテ吸入セシム (セムモリ)

(3) クレオソール 膠囊劑、丸劑、滴劑、溶液トシテ内服セシメ或ハ皮下ニ注射ス (ホルネトヤハ本劑ハ殺菌性ヲ有スルニアラズシテ分泌ヲ減スルニ因リテト云ヒ、クレソール

ラ有スルニアラズシテ分泌ヲ減スルニ因リテト云ヒ、クレソール

レハ其効カラ以テ食慾ヲ佳良ナラシムルニ歸セリ、サレ
ド寧ニ消化器ヲ害スルコトアリ

○クレオソール製劑 (クレオソールハ消化器若クハ腎ヲ
刺戟スルコトヲ其主效トシテ、グアヤコールニ若クハ其化合物ヲ
用フルコトアリ)

イ) グアヤコール 本劑ハ極量一匁〇・三、一日一〇・ニニテ内
服トシテ〇・〇五乃至〇・ニヲ一日ニ匁一漸次増量シテ
一日一〇・ニニ至ル

ロ) 炭酸クレオソール (クレオソール)

ハ) 炭酸グアヤコール (ツオタル)

ニ) チオコトル

ホ) ヒロリン 用量一日ニ匁一茶匙ヨリ始メ漸次増量スルニシ

ヘ) フロリン 一日ニ匁食後三〇・五宛服用

四) イヒチオール 膠囊ニシテ用テ (殺菌性ヲ有シ、蛋白質

質ノ分解ヲ防ギテ有害ノ副作用ヲ起サズ)

五) 芫菁酸加里 其〇・〇〇〇一乃至〇・〇〇〇ニテ皮下

ニ注射 (リゾフラクヒキヤ) スルニ無効ノコトヲ、腎炎ヲ起

スル危険アリ

六) 桂皮酸 ランデル氏ハ桂皮酸ナトリウム (トール)

ヲ生理的食塩水若クハ熱湯ニ溶解シテ一乃至五%溶

液トシテ使用ニ先キテ其溶液ヲ濾過殺菌シ、有色塩

ニ貯ヘテ之ヲ患者ノ前膊ニ於テ靜脈内ニ注射シタリ (或ル

場合ニ殿月部ニ注射スルモ可ナリ)

注射ヲ行フニアラズ、數日間患者ノ体温ヲ精檢シ先ツ

「トール」一密瓦ヨリ始メ(衰弱シタル者、及有熱患者ハ尚少量ヨリ始ム)隔日若クハ二日ヲ隔テ之ヲ注射シ毎回一密瓦カ増量シテ廿五密瓦ニ達シ之ヲ極量トス(極テ罕ニ五十密瓦ニ至ルアリ)而シテヨリ漸次減量シテ五乃至一密瓦ニトリ更ニ再々増量ス斯ノ如クシテ四乃至六箇月間持續シタル后一二ヶ月休止スベシ

(二)細菌的療法 (1)ツベルクリン 却テ其有害ヲ唱フル者アルニ至レリ

(2)新ツベルクリン (コッホ氏炭表) ハ其含量不同ナルコトス、効力モ亦大ニ疑ハシキヲ以テ當時ハ一般ニツベルクリンヲ用ヒ新ツベルクリンヲ顧ル者ナシ

(3)血清療法 マラリリア、ペーリリダ諸ギハ本病血清療法ヲ研究セルモ未ダ目的ヲ達スルニ至ラズ

(辛)對症的療法

(一)熱 アル者ハ絶對的安靜ヲ要ス(是熱ハ身体成分ノ分解起スモノミテ運動モ亦之ト同一作用アレバナリ) 病室ハ空氣ノ流通ニ注意シ、風ナキ床ハ臥床ノマニテ庭ニ出フルモ可ナリ

解熱劑ハ成ルニク微熱ノ際ニ用ヒラカトスニ必要アリ、アセチルアンチフェブリン、アスピリン、フェナセチン、ラクトフェニン、キニーネ、サリチル酸等ヲ用フ近時大ニ「ピラミドン」ヲ稱用スルモノアリ

(二)盜汗 ニハ病室ヲ冷涼ナラシメ患者ニ寢具ヲ過

用スルカス、日暮ニ一盃、冷牛乳ニ茶匙ノ「コンニャツ
 ク」加ヘテ共一、或ハ乾キタル西洋子弼ヲ以テ身体ヲ摩
 擦シ次テ冷水若クハ食醋（一盃、食醋ニ茶匙ノ胡
 椒ヲ加ヘタルモノ）「ブ」ラ「テ」リ「テ」拭ヒ、寝衣及敷布ヲ
 改メ、或ハ「サリキール」酸ヲ撒布ス、
 薬前トシテ「ア」ト「ロ」ヒ「ン」ア「カ」リ「チ」樟腦酸等ヲ用フ
 (三) 咳嗽及喀痰 咳嗽ニ麻酔劑、弱キモノヲ用ヒ
 漸次強キモノニ及ホス
 祛痰劑トシテ「ア」ホ「モ」ル「ヒ」ネ「ア」ヒ「モ」ニ「ム」等ヲ用ヒ
 多量ノ分泌物「ヒ」キ「ゼ」ネ「カ」ラ「フ」用フ
 喀痰ノ量ヲ減ズル為ニ「テ」レ「ヒ」ン「油」、「オ」イ「カ」リ「フ」ス「油」
 等ノ吸入ヲ行フ

(四) 咯血 ノ傾向「ヒ」者ハ、身体及精神ノ過勞、高声、
 長談、暴飲、房事過度、茶、咖啡ノ過飲等ヲ「誠」ニ「忌」ム
 僅少ノ血痰ニテモ「輕」キ者過「ズ」シテ「絶」對的ニ「安」靜ヲ守
 「ラ」シムルヲ要ス、咯血甚「キ」キ「患」者ヲ慰安シ、其「血」カ「氣」
 「ヲ」鼓「弄」スルニ、身体及精神ヲ「絶」對的ニ「安」靜ナラシムル
 「コ」ト「ス」ル「醫」師ノ「精」密ナル「診」查ヲモ「避」クルヲ可トス、殊ニ
 打診ハ行ス「カ」ラズ、其他患者ニ「深」呼吸ヲ為サシムル
 「心」臟部ニ「氷」嚢ヲ貼シ、出血部ヲ推測シ得「ル」ニ「其」部
 ニ「モ」ル「ニ」ハ「氷」嚢ヲ貼スルニ
 麻酔劑ヲ「用」テ「咳」嗽ヲ抑「制」シ且止血劑ヲ與フルハ「最」必
 要ナリ

(五) 胸痛 (主ニ肋膜炎刺戟ニ由リテ起ル)ニ「芥」子「泥」、

芥子油、沃度下幾ハ塗布。プリスニツモ罨法、公口、オ
ル油ハ塗擦等ヲ行フ、其他絆創膏、繃帶ヲ胸部ノ
半側若シハ少クモ疼痛部ニ持流シテ貼スベシ
内服薬トシテ「アセピリン」^{アセピリン}「ガリチール」^{ガリチール}後
曹達ヲ用フ

(六) 下痢 ニ對シテ、食餌療法ハ勿論必要ナリ、

藥劑ノ内用ニ供セラルモノ「タンニン酸」(0.25)「タン
ニゲン」(0.5乃至1.0一日三四回)「タンナルフィン」(1.0)及
「タンナルピン」(1.0乃至2.0一日數回)「鉛糖」(0.03)
「阿片」(0.01一日數回)「乳酸」等ナリ
(七) 喉頭潰瘍 ニ「ヨドリル」^{ヨドリル}「ソフォヨドリル」^{ソフォヨドリル}「亜鉛」^{亜鉛}
0.2乃至0.5「滑石」(0.5)「アリストール」^{アリストール}「テルマトール」^{テルマトール}

「タンニン酸」^{タンニン酸}「プロトムア」^{プロトムア}「モニウム」^{モニウム}「ホルトフォルム」^{ホルトフォルム}等ヲ吸入シ、
又3.0乃至8.0%ノ「乳酸溶液」^{乳酸溶液}ヲ潰瘍面ニ塗布ス
(八) 嚥下ノ困難又ハ嚥下時ノ疼痛ノ為ニ食物ヲ攝
取シ難キ時ハ「モルヒネ」^{モルヒネ}「コチン」^{コチン}及「阿片」^{阿片}ヲ吸入シ或ハ
「アセピリン」^{アセピリン}「コカイン」^{コカイン}「塩酸コカイン」^{塩酸コカイン}0.5、1.0乃至2
.0「餡水」^{餡水}ハ、酒精20.0)若シハ兩者ノ合液ヲ患
部ニ塗布ス
又20%薄荷腦油溶液ヲ塗布スバ效アリト云フ(ロ
ーゼンタール氏)

- (一) 肺炎
- (二) 出血性硬塞
- (三) 肋膜炎
- (四) 就下性肺炎

第 肺臟膨脹不全

本症、肺氣腫、及、肺胞萎縮、の空氣、含量少
 少、或、全、缺、ケル、モノ、ナラシマ

原因 本病、原因、ニ、ハ、大、如、ク、區、別、ス

(一) 先天性肺膨脹不全 本症、胎兒、ノ、状態
 ニ、止、ル、モノ、ニ、元、來、ト、思、ハ、出、産、ス、ル、直、ニ、呼、吸、ヲ、始、メ、
 胸、廓、擴、張、シ、テ、空、氣、腔、内、ニ、吸、メ、シ、テ、肺、速、ニ、空、氣
 ヲ、以、テ、充、タ、サ、ル、ユ、キ、モ、シ、テ、此、亦、呼、吸、ノ、原、因、ハ、胎、盤、脫、落
 シ、母、体、ヨリ、血、液、ヲ、来、ラ、サ、ル、為、ニ、酸、素、ノ、供、給、絶、エ、テ、
 髓、ノ、刺、戟、ヲ、受、ク、ニ、テ、其、他、ト、モ、產、直、後、ニ、空、氣、皮、膚
 ヲ、刺、戟、ス、ト、シ、テ、呼、吸、開、始、ヲ、促、ス、故、ニ、若、シ、出、産、ノ
 際、胎、盤、脫、落、ス、ル、ト、モ、本、症、ヲ、惹、ク

胎盤脫落ノ

(二) 後天性肺膨脹不全 此原因ニ數種區別アリ
 (1) 閉塞性又ハ吸收性肺膨脹不全 氣管枝閉塞
 此等空氣ヲ通スルハ肺中ノ空氣ハ吸收セラル

(2) 压迫性肺膨脹不全 肺實質ハ近接セル腺體
 為ニ压迫セラルニ由リ本病ヲ發ス

(3) 消削性肺膨脹不全 重病ニシテ呼吸筋衰弱
 或ハ患者嗜煙收ニ治リ呼吸中ハ感受減カシ、
 深呼吸ヲ重ク能ハスハ本病ヲ發ス(例之ニ腸管
 扶助)

解剖 患部ハ空氣ヲ失アリテ全空氣部ヨリモ、
 其容積減シ肺ノ表面ヨリ陷没シ、暗青色ヲ呈
 ス、其切断面ハ帶褐赤色ニシテ稠萎乾燥シ之ヲ

圧スルモ空氣ヲ排セズ、其小截ヲラ水中ニ投ズルニ
 器底ニ沈降ス患部ニ空氣ヲ吸メタルハ其凹陷
 タル部ハ膨脹シテ他部ト同一ノ平面ニ復シ其色澤
 亦尋常ニ復ス

症候 (一) 先天性肺膨脹不全 早産兒、發育

不良兒及假死ノ状態ニテ、出生後ニ見ル肺ノ
 膨脹不全アリ、斯ル如キ兒ハ呼吸淺表ニシテ健兒
 ノ如ク叫啼ス、其運動活潑ナク、嗜煙狀ニシテ
 哺乳ヲ好マズ、顔色ハ蒼白也乃至蒼青色ニ
 理學的症候ハ唯患部ノ廣大ナルヲ認メ

得ニ
 (二) 後天性肺膨脹不全 亦亦他ノ疾患ニ從

候トシテ現ハルモノニテ呼吸困難胸廓以氣
的陷没。声音震顛、淺盛、呼吸音微弱並其
管枝音ナリ本病ノ濁音並ニ捻髮音、深呼吸

及体位ノ變換ニ依テ消滅スルアリ
診斷 其原因呼吸困難(呼吸困難若身
症)及肺無氣(濁音、氣管支音、声音震

顛ノ由
豫後 先天性ノ者ハ多クハ不良ニテ後天性ノ

原因及患部ニ依テ決定ス
療法 先天性ノモノハ口内ヲ清拭シテ胎

便ヲアズクニテ除キ小兒ヲ湯ニシテ冷水ヲ灌ギ、
或ハ胸筋及后頸筋ニ冷水ヲ灌注シテ深呼吸

氣ヲ促ス、或ハ兒付テ動搖シテ深呼吸ヲ促ス可
後天性ノモノ原因ニ注意シ時ニ患者ノ体位ヲ變
ス(腸管攣束)解熱劑、元奮劑及湯壯
劑ヲ用ヒ患者ヲ温湯中ニ入シ冷水ヲ灌ギテ深
吸氣ヲ促ス可

第 就下性肺充血

解剖 心力減退ニ至重ニ患患者ノ久時一定体
位ヲ取リシキハ其下ニテハ肺筋ハ自行緩慢ト
ナリ遂ニ血液蓄滯スルニ至ル故ニ本病肺ノ後下
部ニ限リテ多シ

始メニ毛細血管閉止シ次ニ肺脈閉止ス、連綿
ハ暗赤色ヲ呈ス、其切面ヲ圧搾スルハ多量

- 一) 肺炎
- 二) 肺膨脹不全
- 三) 肺水腫
- 四) 血性硬塞

粘稠之血樣物之漏出之次、肺胞内之漏出
液之生じ、遂に重く且弛後、其外観並に
硬度脾脈心(脾變)本病、又乾下性病
也ト云フ

原因 腸管攣縮、骨痛、關節痛、脊骨
痛、一定之体位ヲ取リ、且心力衰弱ヲ
来ス者及胸廓畸形助膈子ノ疾患ニシテ、
肺呼吸ヲ妨ゲル者、本病ヲ云フ

症候 本病、心力衰弱及呼吸困難症アリ
初期即チ肺胞内空量減少シ、尚全ク駆出
若クハ吸收セシムル間、患者起立位ニ於テ、鼓
音若クハ比較的濁音ヲ及ス、此既ニ空氣全

ク消失スルニ至ルハ、呼吸生理學的症候即チ純
濁音、氣管枝音、氣管支音、聲音震動、
強盛ヲ云フ

診斷 本病、生前看道セリ、ト多ク是重
病患者、其背脊ヲ精診スルニ困難トシ、
其其他覺的症候モ、微弱ナル以テナリ
豫後不愈

療法 精神昏憊ナル患者、又ハ重病患
者ハ、臥位ヲ變更スルニ

心衰弱ヲ防グ為ニ、興奮劑ヲ與フルヲ可トス

第

肺臟膿瘍

原因 本病、迅速ニ肺組織ニ及スル膿瘍ニ
由リ、

- 鑑別疾患
- (一) 外部膿瘍、肺破壊者
 - (二) 氣管枝擴張性空洞
 - (三) 肺病性空洞
 - (四) 肺壞疽
 - (五) 腐敗性氣管枝炎

肺膿瘍

之ヲ其細菌ハ必用ナルヲ疑フ容シス
 其病原 (一) 纖維性肺炎 (二) 栓塞 (三) 異物吸引
 (四) 胸壁ヲ穿通シテ外傷 (五) 肺梗死ノ膿瘍ノ肺
 膿ノ穿孔子也

解剖 肺膿瘍内ニ膿液ヲ充タル空洞アリ其大
 ナク豌豆大乃至核桃大ニ達ス。纖維性肺炎ニ付
 之者ハ空洞殊ニ大ニテ全肺葉ヲ侵ス

症候 最モ必要ナルハ咳嗽ノ性變ニシテ膿様
 之呈シ、肉眼ヲ以テ見得キ肺組織ハ碎片アリ其
 量頗多シ

咳嗽ヲ顕微鏡下ニ檢スルニ其中ノ肺組織片ハ
 肺胞ノ彈力纖維網ニテ其中ニ細胞、結晶及

分裂菌ヲ混ス其他膿瘍中ニ放射線状又ハ束絨
 状ノ脂酸結晶、黃褐色若ハ褐赤色ノ色素
 塊及多シノ枝状又ハ束状ヲ為セルマトイノ結
 晶ヲ見ル

胸廓ノ理學的症候ハ病竈淺在ニテ空洞
 大ニ付ハ空洞症狀ヲ示ス
 熱ハ多シハ不正ナリ

合併症 最モ多キハ膿性肋膜炎也

診断 診断上必出タル咳嗽ニテ痰ハ膿状
 ナリ、其中ニ肉眼ヲ見得キ肺組織ノ碎片
 アリ、鏡檢スルニ彈力纖維及マトイノ結晶
 存スルヲ見ル

△豫后 不良にして肺壊死ニ成ルハ遙ニ佳退

△療法 膿竈、肺表面ニ在ルニ在リ又ハ膿

胸多付ニ生テ外科的療法(肺切開術)ヲ要ス

外科的療法ヲ行ヒ得サルハ對症的療法

トシテ(一)体カラ保テ(二)化膿ヲ制シ(三)膿ヲ必

シ御テ分ラ要ス

佳良ナル滋養食料、アルコホルミン等、体内

ノ空気を、新鮮ニシテ汚腐チテ穢チテ空

氣ヲ清キコトニシテ「フォルミン」チモ「ル

カリ」此破糖達「レ」ビ「油」ヲ吸メセム或

ハ「シ」オ「フ」ト「ル」ト「ル」テ「レ」ビ「油」ヲ内服セシム

○第五章 肋膜炎ノ疾病

第一 肋膜炎

△原因 本症、我國於テ呼吸器病中最多數

ヲ占ムモノニシテ屍体ニ於テ偶然発見シテ輕度ノ癒

著クモ算入スルニ其數驚クニ程多トナルニ

本病、老若男女共ニ侵サルニ殊ニ廿歳乃至五十歳

ニ最多シト云フハ女子ヨリモ多ク之ニ罹ル

本症、感冒ニ由リ發スルニ疑ナシ(感冒性肋膜炎、

傷寒質斯性肋膜炎)兵士、水夫、本病ニ罹ル者多キ

ハ其感冒ニ罹ルノ多キ為ニ

外傷、為ニ肋膜炎ヲ發スルアリ(外傷性肋膜炎)

病毒、肋膜炎ニ侵入スルニ(三首)アリ

カカス

(一) 附近、膿腔より直接、疾患、肋膜炎、肋膜炎上、移行する場合
ニテ最モ多シ

(二) 淋巴道より毒物の侵入ニシテ前者ニ比スルニ遙ニ
少ク

(三) 血管ナリ

要スルニ肋膜炎ハ概テ二次的疾患ニシテ附近ハ膿腔
殊ニ肺膿ハ疾患より移行スルニ最モ多ク稀ニ淋巴道
ノ媒介ニ由リ尚公テ血管ノ媒介ニ由ル

血管及肺陣代謝ノ障得モ亦本病ノ原因トナル
肋膜炎自己ノ疾病例之ハ肋膜炎腫瘍等ヨリシテ本
病ヲ發スルアリ

解剖 本病ハ其ハ炎症産物ノ性質ニ從ヒテ**乾性**

濕性ノ二種ニ區別ス

甲ハ纖維素ノ沈着ヲ来スモノニシテ之ヲ**乾性肋膜炎**ト云

乙ハ滲出液ヲ生ズルモノニシテ之ヲ**液性肋膜炎**ト云フ

液性肋膜炎ハ液ノ性質ニ由リテ如ク區別ス

(一) 漿液性肋膜炎

(二) 膿性肋膜炎

(三) 出血性肋膜炎

(四) 腐敗性肋膜炎

此各種ノ肋膜炎ハ初期ニアリテ何モ同一状態ニシテ、
肋膜炎充血腫脹シ光澤ヲ失ヒ潤濁シ纖維素
ヲ滲出シテ肋膜炎表面菲薄ノ膜ヲ生ス此期ハ**乾性**
肋膜炎ニシテ或ハ纖維性肋膜炎トモ稱ス 而シテ

患部廣狹從多限局性乾性肋膜炎ト蔓延性乾性肋膜炎ト區別ス

乾性症治癒スバ其義膜吸收セシ或ハ結締織ニ化シテ肺肋膜ト胸肋膜ト癒着ヲ起ス、
后者ハ之ヲ癒着性肋膜炎ト稱ス

乾性肋膜炎ノ病變更増進スルハ肋膜腔内ニ
滲出物ヲ生シテ滲出性肋膜炎ト成ル

漿液性肋膜炎ノ滲出液稀薄ニシテ黄色若クハ帶
緑黄色ヲ呈シ多クハ纖維素ヲ含ミ比重一〇〇五乃至
一〇三五ノ間ヲ昇降シ量甚不常ニシテ少キ痕跡ニ止
リ多キ數リトテ此ニ達ス其平均量一乃至二、五リ
トテ此ナリ

○滲出液ノ化学的造構 液中ニ多量ノ蛋白質
ヲ含ミ其他尿素、尿酸、ホステアリン、
フ合ハム

葡萄糖等

肺肋膜ト胸肋膜ト間ニ癒着ヲ生ジタル為ニ滲出液
液ノ全ク包圍セラルトアリ(包圍性肋膜炎)

滲出液溜溜スルハ胸腹諸臟器ノ圧迫症候ヲ發
往々肋膜肥厚ニテ所謂肋膜炎性皮層ヲ形成スルアリ

○本症ニ屢々生
活中全然症候ヲ
呈セザルアリ(潛
在性肋膜炎)

本症或ハ急性、
慢性ヲ取リ或ハ
急性或ハ慢性、
經過ヲ取ル而シテ
受ケテ疼痛ヲ發スル為ナリ

患者常ニ健側ニ臥ス(是患側ニ臥スルハ胸廓圧迫ヲ
受ケテ疼痛ヲ發スル為ナリ)

患側ニ臥スルハ胸廓圧迫ヲ
受ケテ疼痛ヲ發スル為ナリ

局所之症候は必
 患側呼吸運動ハ健側ヨリモ微弱ナリ
 (一) 類鼻音
 (二) 捻髪音
 (三) 捻髪音
 (四) 肋間神経痛
 (五) 胸筋優質筋

患側呼吸運動ハ健側ヨリモ微弱ナリ
 (一) 類鼻音
 (二) 捻髪音
 (三) 捻髪音
 (四) 肋間神経痛
 (五) 胸筋優質筋

局所之症候は必
 患側呼吸運動ハ健側ヨリモ微弱ナリ
 (一) 類鼻音
 (二) 捻髪音
 (三) 捻髪音
 (四) 肋間神経痛
 (五) 胸筋優質筋

(六) 肋骨痛

(一) 麻子擦音ハ様ナクシテ判然タル断続ヲ現ハシ且表
 在性
 (二) 摩子擦音ハ軟カシテ捻髪音ニ類シ或ハ微細ノ乾性
 囉音ニ似或ハ粗糙ニシキ新シキ革ヲ撓ル如キ音ヲ出ス
 (新革叩乾音)
 (三) 摩子擦音ハ多クハ吸氣終ニ發シ或ハ延テ呼氣ニ及ブ
 (二) 摩子擦音ハ深吸氣又ハ肋間ヲ圧スルニ増劇ス
 (ホ) 摩子擦音ハ多クハ胸廓下部殊ニ前側壁ニ出ス
 (五) 胸痛ハ本病ニ於テ一現ハルニ主徵ニシテ患部ニ
 存ス。深呼吸又ハ強劇ノ運動時ニ刺痛ヲ出ス
 本症ノ後遺症ニ癒着ナリ
 左側乾性肋膜炎後ニ屢ニ心悸亢進ヲ貽スナリ

- (一) 鑑別疾患
- (二) 格魯希性肺炎
- (三) 肺癆
- (四) 肺腫瘍
- (五) 心囊炎
- (六) 脾腫
- (七) 肝肥大
- (八) 胸水
- (九) 脊柱流注膿
- (十) 肋膜炎
- (十一) 肋膜癌腫
- (十二) 肋骨腫瘍
- (十三) 肋骨骨折

乙) 渗出性肋膜炎 本症ノ局処症候ハ液体ノ量、殊ニ其液体ノ近傍ノ臓器ニ及ビ、圧迫如何ニ因リ、
 (一) 視診 患者常ニ患側臥位ヲ取ルニ成ル、健肺ノ呼吸ヲ自由ナラシメトラシ

患側ハ胸廓著ク擴張シ、肋間腔ハ擴張シ若ク稍膨出ス、乳房及肩胛中線ヲ著ク離隔シ脊柱ハ其凸面ヲ患側ニ向ケテ少シク側彎ス

患側ノ呼吸運動ハ幽微若クハ消失ス
 (二) 觸診 液体ノ存在ニ部々ニハ声音震顫或減弱ニ或消失ス

(三) 打診 ハ本病診断上必要ナリ、セド極ラ少量ノ液体ハ液ハ打診ニ由リテ之ヲ証明セテ得ス、大人ニ於

テ打診ニ由リテ液体ノ性肋膜炎ニテラ診断スルハ四百乃至五百立方仙達ノ液体アレラ要ス。中等度若クハ多量ノ液体ハ物アレハ上方より下方ニ至ルニ從テ漸次加ハル濁音ヲ認ム。中等度ノ液体ハ患者ノ臥床セシ中ノ濁音ノ上界多クハ斜線ヲカシ脊柱ニ於テ最も高ク之ヨリ胸側部ニ向ヒテ斜メニ下降ス

中等量以上ノ液体ハ前胸壁ヲ打診スルニ亦ハ亦ニ肋間ニ於テ打診音ハ低調トナリ鼓音ヲ帯ブル、ア、其肺ノ圧迫セラシテ退縮シ緊張ヲ失フニ由ル(スコトダ氏音)
 液体ノ液大量ナルハ、ワイルリアム氏氣管枝音ヲ發ス

大滲出液アルハ胸廓前上部ニ於テ退縮スル
肺ノ部分ニ破壺音ヲ覆ルニアリ
觸打法ヲ行フニ患部濁音ヲ得ルニシテ同時
ニ抵抗ノ感強シ
トラウエ氏ハ右側滲出性肋膜炎ノ診斷ニ就テ
半月状部ノ變小若クハ消失ニ注意セリ
四聽診ニシテ滲出物ノ区域内ニ於テ呼吸音微弱
トナリ又ハ消失ス
滲出液ノ為ニ肺臟圧迫セシラ退縮シ空氣含
量少クナルハ氣管枝音ヲ覆ス
肋膜炎性摩擦音ハ粗糙トナル内外兩胸膜面
ノ相摩擦スルニ由リテ發スルモノナルヲ以テ滲出液ノ為

ニ兩葉ノ相隔離セル部分ニ於テ之ヲ聞クトナシ故
ニ之ヲ聞クハ肋膜炎ノ初期ノ未ダ液滲出シセザルハ
並ニ吸收期ナリトス
體温 本病ハ通常惡寒ヲ以テ始マリ次テ稽留
性ニ亞稽留性又ハ弛張性熱ヲ覆ス熱型別ニ
固有ナリトス
膿性滲出物アル本症ハ漿液性ノ者ニ比シバ
屢ニ弛張性ニテ時トシテハ消耗性ナリトアリセド
又無熱ニ達スルモノナキニテトス
心臟 右側滲出性肋膜炎ニ於テハ右方ニ壓
迫セシ右側肋膜炎ニ於テハ遠シク左方ニ轉移ス
而シテ肺動脈音ニ音強盛トナル

尿量ハ著ク減少シ尿濃厚トナリ尿酸塩類ニ富ム時トシテ蛋白質及内柱ヲ見ルアリ合併症 炎症ノ部位、滲出物ノ多ク並ニ其性質ニ由リテ差違アリ

其炎症ノ部位ニ由リテ區別ハ次ノ如シ

- 一、心嚢性肋膜炎 ハ心包外肋膜炎ナリ
 - 二、横隔膜部肋膜炎 ハ滲出物、横隔膜ト陷凹セル肺下面トノ間ニ集積シテモニテ呼吸時疼痛極メテ劇シ
 - 三、葉間肋膜炎 滲出液肺葉間ノ葉間溝ニ溜リシ茲ニ包裏セテ其症状大ニ肺膿瘍類ス
- 膿性肋膜炎即チ膿胸ニ適宜ノ時期ニ手術シテ其

滲出物ヲ排泄シテアサシハ其膿液外方若クハ肺臟並ニ其他ノ内臟ニ潰裂スルコト

経過 一定ス、其経過ニ由リテ急性、亜急性及慢性ニ區別ス、稀ニ最急性肋膜炎ヲ見ル

轉歸及後遺病 膿液性肋膜炎ニ於テハ滲出液漸ク吸収スレテ全愈ス然レ後ニハ下アサレド

多クハ肋膜炎性癒着ヲ殘シ、胸廓牽縮ヲ發シ、慢性ノ病後患部ニ緊張及鈍痛ヲ發スルアリ

診断 乾性肋膜炎ニ徴ハ疼痛及摩擦音ニ滲出性肋膜炎ヲ以テ診斷スル、肋膜炎内ニハ性滲出物ヲ存スルヲ確シ且試驗室ヲ行ヒテ其滲出液性状ヲ認知スルヲ要ス

小兒ニ於テハ滲出性肋膜炎ハ多クハ膿胸也
而側肋膜炎ハ多クハ全身病若クハ傳染病ニ流注
スルモノトス

鑑別

(一)類聲音 (ハ)類聲音ハ胸部大部
ニ於テ起シ (ニ)持續性ニシテ段落ナシ (三)劇咳
ニ由リ或ハ強盛或ハ微弱或ハ消失スルモ摩擦
音ハ毫毛モ變化ス (四)指又ハ聽診器ヲ以テ強ク肋
間ヲ圧スニ摩擦音ハ強盛トナシ類聲音ハ
然ラズ
(二)心嚢炎性摩擦音 心嚢附近ニ限局性
乾性肋膜炎ニシテ心嚢外摩擦音ト心嚢
炎性摩擦音ト鑑別ヲ要ス (ハ)呼吸ノ深淺ニ依

リ摩擦音ノ高低凡ハ肋膜炎性ナリ (ニ)呼吸ヲ中
止スル肋膜炎性摩擦音ハ速ニ消失ス (三)深吸
氣状態ニ於テ呼吸ヲ中止スルハ肋膜炎性摩擦
音ハ直ニ消失スレバ心嚢炎性如ク強盛トナシ
(四)肋膜炎性摩擦音ハ好シクハ心尖附近部殊ハ心臓
ノ左緣ニ發スルモノ多キモ心嚢性摩擦音ハ肺動
脈圓錐部即チ胸骨体中三分一處ニ於テ胸
骨九緣ニ密接シタル左第ニ至五肋間部ニ
現ルモノ

其他 (三)肋間神經痛 (四)胸筋痙攣及質斯、
(五)肋骨炎 (六)肺炎 (七)肺腫瘍 (八)肋膜炎
腫瘍 (九)肋膜炎外膿瘍 (十)動脈痛 (十一)胸水道

豫后 原因及治療の性質は、後述に於て差出あり、乾性肋膜炎の豫后は、往々肺結核を繼發せる虞あり、急性肋膜炎の豫后は、其性質及量に關し、膿胸の豫后は、良否ハ手術時期の適否にあり、**一** 腐敗性、**二** 虫及乳葉性、**三** 液の豫后も亦良しき、

兩側肋膜炎ハ概シ豫后不良シ

經過 急性肋膜炎は、最急性肋膜炎の豫后ハ危險シ、液の量多シテ存シテ變セサルモノ

後ニ中々危状増悪スルモノ其液ハ人工的ニ除去スルニ付、**一** 呼吸セザルコトナシ

治療法 (一) 乾性肋膜炎 (一) 内服薬トシテ

サリチル酸曲達、若クハアスピリンヲ用フ

(二) 局処ニ濕性濕巻法ヲ施スベシ

(三) 疼痛強キハ麻酔劑ハ内服又ハ皮下注射ヲ行

(四) 胸痛ニ浸透膏、沃度下敷、イヒチカトル軟

膏及熱(十%)ヲ用フ

(五) 液多シテ性肋膜炎 (一) 亦上ニ安臥セシムルニ要ス

(二) 便通ニ注意スベシ

(三) 採取スルニ液量ヲ必要ノ度ニ止メテ尿量ヨリ

多クシメサルヤ少シ注意スベシ

(四) 牛乳療法ノ效ヲ奏スルコトアリ (是牛乳ノ

便通、尿利ヲ良クシムルニ由ル)

(五) 血液ヲ濃厚ナラシムルニ由リテ液ノ吸收ニ

目的ニテ空ニシテヨリヤノ療法即チ渴ニ療法ヲ行フアリ

六) 局部ニ濕性濕層法ヲ行フ

七) 吸收薬トシテ殊ニ慢性症ニ沃交劑ヲ用フ

八) 發汗利尿ノ目的ニテ殊ニ急性症ニ「カリチール

酸」及「ナリチール」酸ナトリウム、~~ナリチール~~「ナリチール」酸、硝酸

加里、醋酸加里、カフェイン、及其塩類、甘水、重

酒石酸加里、海葱醋等ヲ用フ

九) 誘導ノ目的ニテ患側ノ胸部ニ頻回及癆

膏ヲ貼シテ效スルアリ

十) 下劑(峻下劑)ヲ用フルアリ

十一) 強壯劑ヲ用フ

(五) 肋膜穿刺 此法ハ套管針ヲ用ヒテ空刺し肋

膜腔ニ液ヲ抽出セシムルアリ

其適應症ハ(一) 渗出物為ニ生命危險ノ徴

見ケル(二) 自覺的症候ナキモ多量ノ液ノ存在セルキ

(三) 多量ニ存スル液ニ物必收メ滯セルキニ

近時ハ早期穿刺術ヲ費用ス要スルニ渗出液

アルニ穿刺ハ遲キニ失ルヨリモ早キニ過ルルヲ可ト

多クハ單純ノ穿刺ニ由リテ目的ヲ達シ得ルキモ時ト

シテハ吸引装置ヲ要スルアリ吸引装置ニハ

ポテシ氏、フェルグソン氏等ノモノアリ

(六) 膿胸ニ胸部切開術ヲ要ス

(七) 胸廓萎縮 胸痛アルモノニハ「ハ」ニテ

此法にて、緊張、胸痛、炎症、高熱ヲ貼スルハ
著效アリ

肋膜穿刺術

患者ヲミテ坐位若クハ半位ト地平位トノ中間位
ヲ取ラシメ高シテ或ハ椅子ニ倚リ或ハ臥床ノ側縁
ニ坐シテ一病側ヲモ直シクセシム臥床ノ傍ニ机上
ニ消毒機ヲ配列シ(器械ハ充分消毒シ且消毒
液ニ浸シ置ク)尚葡萄酒、樟腦油、塩酸モル
トスル水等ヲモ準備シ置クヲ要ス

最モ適宜ナル穿刺部ハローゼンバツハキニ依リ
前腋窩線ト腋窩線トノ間ニ於テ右胸亦
五肋骨亦七肋間、左胸亦六肋骨亦七肋間ニ

穿刺スルキ初ハ精密ニ検査シ且兩肺石驗ニテ
十分ニ消毒洗滌シ注射器ヲ以テ先ツ試驗
穿刺シ而シテ此處液ニ達スルキ針ノ長サヲ
測定シ置クヲ要ス

此法驗ニ穿刺ニヨリテ液体アルコトヲ認メ得ル
キハ術者ハ右手ニ大氣炎針ヲ執リテ能ク套
管ヲ固定シ(若シ此固定十分ナラザルハ穿刺部
困難シ)胸壁ニ刺入ル針ノ長サヲ定メ、穿刺部ハ
患者ノ運動及呼吸ニ由リテ容易ニ移動スルコトヲ
左手ノ中指及示指ニテ固定シ胸壁ニ對シテ針ヲ
直角ニ立テ肋間ノ中央若クハ下部ヲ快クニ強ク穿
刺スルコトヲ徐々ニ刺針ヲ亭出シ、活栓ノ下部ニ

此ハ先ツ之ヲ閉鎖シテ利針ヲ撤去スル期ノ如ク
 之ハ後出ノ液ハ側管及復徳管ヲ通過シテ林
 下ノ桶内流ルルニシテチムセンモ依レハ穿孔時
 塩酸モルヒネ〇、一ヲ皮下ニ注射スルハ患者ヲ安
 静トシ且屢々手術末期ニ起シ咳嗽刺戟ヲ制止
 スル利益アリトス

液ノ流ル量一及び一五リ、一ニ達シタルハ
 手術ヲ終ルニ即チ左手ノ拇指及示指ノ以テ套
 管ニ接シテ皮ヲ圧迫シ、右手ヲ以テ迅速ニ套
 管ヲ抜去シ、創面ニ縫合シテ絆創膏ヲ貼シ或
 ハ縫合シテ活々ホルム、コロゲラムヲ塗布スルニ

第二 氣胸

- 鑑別疾患
- (一) 肺氣腫
 - (二) 肺空洞
 - (三) 胃擴張
 - (四) 横膈膜下氣
 - (五) 肝充血

原因

氣胸ト助膜腔内ニ空氣存在スルモノヲ云フ
 但多クハ液体ヲモ共ニ含ムモノニシテ此場合ニハ水氣胸
 ト稱ス、水氣胸、其液ノ性質、由リテ漿液性氣胸、
 膿氣胸、血氣胸、ニ區別ス

氣胸ヲ起スル原因ハ(一)肺疾患(二)氣管枝ノ疾患
 (三)肋膜ノ疾患(四)縱隔洞内ノ疾患(五)腹腔臟器
 疾患(六)胸壁ノ損傷等ニシ

要スルニ氣胸ハ含氣臟器若クハ外氣下、肋膜腔トハ
 交通ニ由リテ起スルモノニシテ其外方例之ハ胸壁ニ穿
 孔ニ由リテ生ズルニシテ外氣胸ト云ヒ内方則チ肺臟
 及肋膜腔ニ穿孔シテ起スルニシテ内氣胸ト云フ

解剖 屍体ヲ檢スルニ病側著ク擴大シ横隔膜下
降ス、肋膜腔ニ瓦斯体充盛タルヲ胸廓ヲ穿刺
ス、其瓦斯笛音様ノ雜音ヲ發スルヲ逃遁ス、
本病ノ多クハ空氣、外溢シ液ヲ入ルニ所謂水氣胸
ニシテ孰中膿集胸者ハ漿液氣胸多ク血氣胸ハ

罕シ

肺臟之基礎部ニ壓迫セシメ一個團塊ニ變スルヲ
心臟、肝、脾等モ亦壓迫ノ為ニ轉位ス、

症候 本病ヲ發スルニ急ニ胸廓一側ニ非常ノ劇痛
ヲ發シ呼吸困難ヲ来ス、

(一)視診 病側著ク擴張シ、呼吸運動微弱若
ク消失ス患部ニ常ニ病側ニ臥ス

(二)觸診 声音 震動減弱若クハ消失ス

(三)打診 開口性氣胸ニ於テ打診音著ク清朗ニ
シテ鼓性ヲ言ヒ胸壁緊張スルニハ高調音ヲ放テ、
鼓性ナラザルニテハ、常ニハ半濁音ヲ示ス、而シテ

其音ノ區域ハ健人ノ肺野ヲ越テ廣大シ

肋膜腔内ニ瓦斯体ト液体ト共存スルヲ以テ体位
ニ變換シテ打診音モ亦變換ス

(四)聽診 患者ノ肩胛部ヲ把握シテ其身体ヲ振

搖スルニ鐘性振盪音ヲ聽取シ得ルニ其音ハ
恰モ少許ノ水ヲ容シタル錘子ヲ動搖スルカ如シニテ
呼吸音ハ缺如ス水氣胸ヲ於テ水滴ノ落下シ

如キ音ヲ聴ク之ヲ痛落音トシテ
一、小杆仰之ハ打珍槌ノ柄ノ如キモノヲ以テ輕ク打珍
板ニテ打テ胸廓ヲ聴取スルヤ(杆打板打珍ハ
鑼性音ヲ著ス)

経過 或ハ急性ナラフ又ハ慢性

診断 原因ニ依リ急慢ニ按テ長呼吸運動
ノ減弱、去音震動ノ消失、法頭ニ打珍音
呼吸音ノ消失、ニ依リテスル根拠音、滴落
音、杆打板打珍音等ノ成績ニ依リテ診断ヲ
下スル也

豫後 危殆ニ 難状氣胸ハ其モ不良ニシテ
閉鎖性氣胸ハ慢性氣胸ノモ終局良也

療法 對症ニ以テ呼吸困難ニモルニテ不用テ
内トシテハ肋膜炎刺治若シ肋膜炎切開術ヲ要スル
コトアリ

第三 胸水

鑑別疾患
(一) 渗出性肋膜炎

胸水ハ水腫性液、肋膜炎内ニ滲漏スル症ヲ云フ
原因 (一) 心臓病及呼吸器病(特ニ慢性水腫)、
(二) 血中蛋白ノ缺乏(ブライト病、慢性下痢)、(三) 血
管壁ノ変性(感冒、猩紅熱)、(四) 淋巴管ノ閉塞(胸
管ノ圧迫)之

解剖 两侧ノ肋膜炎内ニ清澄ニ粘痰ヲ貯ル
モノ見ル 肋膜炎ニ從テ滲漏ス

症候 理學的症候(一) 視診 從テ胸廓擴張

(月)

張ス、呼吸運動ハ弱シ、胸水ニ常ニ両側ニ其ルヲ

以テ、心臓ハ轉位ヲ起サシテ、肝及脾ハ往々轉位ス

二、錫診 発音 震動 缺如ス

三、打診 濁音ヲ多ク、濁音部、上界呼吸ニ

由リテ、後面ニ強ク上面具體位ノ變換ニ由リテ直ニ變

換シ、強ク常ニ下方ニ位シ、後面水平ニ

四、聽診 呼吸音微弱ニシテ、強ク氣管音及音

ヲ多ク

△**診断** 原因ニ注意シ、液ノ存在及其運動ニ

メ、其ニ其診斷困難ナキ

△**療法** 原因療法ヲ行フ

心裏水腫

膈膈心

心動不安

野狀如絲如線

汗發時心博元進

候心之症

寫字不善

頭直

喉乾如石

舌門可移

喉乾如石

喉乾如石

舌門可移

氣為痰

喉隔洞

紅字批注